

# 第71回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第71回日本体力医学会大会を下記の通り岩手県盛岡市において開催致します。

全国から多くの会員のご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第71回大会ホームページ（<http://tairyoku71.umin.jp>）をご覧ください。

## 記

1. 会 期：平成28年9月23日(金)，24日(土)，25日(日)
2. 会 場：いわて県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)  
盛岡地域交流センター市民文化ホール「マリオス」(盛岡市盛岡駅西通2-9-1)
3. 大 会 長：立身 政信（岩手大学保健管理センター 教授）
4. 大会事務局：岩手大学教育学部保健体育科  
第71回日本体力医学会大会事務局  
事務局長：上濱 龍也  
〒020-8550 盛岡市上田3-18-8  
TEL：019-621-6521 FAX：019-621-6521  
E-mail：kamihama@iwate-u.ac.jp  
運営事務局：〒020-0857 盛岡市北飯岡1-5-5  
有限会社 ヤマダプランニング 担当：八重畑 茂  
TEL：019-635-6011 FAX：019-635-6033  
E-mail：tairyoku71@yamada-planning.co.jp
5. 大会プログラム（予定）
  - (1) 大会長講演
  - (2) 特別講演
  - (3) 教育講演
  - (4) シンポジウム
  - (5) 国際セッション
  - (6) ワークショップ
  - (7) 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表）
  - (8) 学会賞受賞講演
  - (9) ランチョンセミナー
  - (10) 県民・市民公開講座
  - (11) 持久走大会
  - (12) その他

注1) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

## 国際セッションのご案内

日本体力医学会では ECSS (European College of Sport Science, ヨーロッパスポーツ科学学会) との間で, 国際交流の促進と学会員の学術レベル向上を目的として, 平成11年度より若手研究者の交流事業を実施しています. 平成28年岩手県で開催される第71回日本体力医学会大会では, 日本, ヨーロッパその他の海外の若手研究者の参加による「国際セッション」を開催する予定です.

奮ってご応募くださるようお願い申し上げます. 詳細に関しては第2報でお知らせいたします.

# 第70回日本体力医学会大会(和歌山)を終えて



第70回日本体力医学会大会大会長  
文部科学省認定障がい者スポーツ医科学研究拠点みらい医療推進センター所長  
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座教授

田 島 文 博

この度は、第70回日本体力医学会大会開催にあたり、皆様の多大なご援助を賜り、心よりお礼申し上げます。

本大会は平成27年9月18日(金)～20日(日)にわたり、和歌山県民文化会館(和歌山市小松原通り1丁目1番地)とホテルアバローム紀の国(和歌山市湊通丁北2丁目1-2)で開催いたしました。参加者は事前参加1,402名、当日参加450名、招待(非会員の座長、講師など)53名、和歌山県教育委員会7名、県民公開講座①・②一般参加者600名 合計2,512名のご参加を頂きました。演題に関しましては、指定演題165題、一般演題856題(口演387題、ポスター469題)、合計1,021題でした。このように多くのご演題とご参加をいただき、感謝申し上げます。

欧米型の学会を意識し、国内外から多くの専門家を招きました。2つの招待講演は、運動時循環調節で有名なペンシルバニア大学教授 Marc P. Kaufman先生と英国ラフバラ大学教授 Vicky Goosey-Tolfrey先生にお願いしました。Kaufman先生のご招待に関しましては広島大学教授 松川寛二先生に大変お世話になりました。他に、特別講演2、教育講演7、県民公開講座2、シンポジウム26、ワークショップ1、ランチョンセミナー10、イブニングセミナー1、そして、大会長講演を行いました。また、展示や広告、ランチョンおよびイブニングセミナーをはじめ、大会にご支援・ご協力下された賛助団体、関連企業様に対して感謝申し上げます。また、共催をご快諾下さいました和歌山県立医科大学学長 岡村吉隆先生と、有形無形のご支援を賜りました和歌山県各位にお礼申し上げます。実は、運営にあたり、主にスポーツイベントを手がけているセレスポ社に委嘱し、高品質なサポートをして頂きました。

会期中には様々なサプライズもございました。本大会シンポジストであった鈴木大地先生が初代スポーツ庁長官に内定され、参加者全員で喜びました。副大会長 本山貢先生のご尽力により大会長講演の折に、和歌山県知事 仁坂吉伸様にご来場くださり、挨拶下さいました。大変光栄に存じます。懇親会では那智勝浦町長 寺本真一様からマグロの差し入れを頂きました。また、会期後になってしまいましたが、会員懇親会会場であった建物内の和歌山県立医科大学みらい医療推進センターにおきまして、皇太子殿下に御行啓を賜る慶事もございました。

ご存じのように、本大会は体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用を目的として昭和24年に設立されました。その後、社会的ニーズが健康維持増進へむかったため、生活習慣病対策としての運動療法研究が大きな流れとなりました。

もちろん、健常者のトップアスリートを対象とした医科学研究も活発に討議されました。運動負荷・トレーニングを積み重ねたアスリートが各種スポーツで高度なパフォーマンスを示し、

我々に深い感動を与えてくれます。そのトップアスリートのパフォーマンスをさらに改善する為のスポーツ医科学、そして、事故やスポーツ傷害からの復帰をサポートする医科学も格段の進歩を遂げています。いずれの分野の研究においても、過去70年にわたる体力医学会の果たした役割は大変大きかったと言えます。これらのことが、シンポジウムなどを通じて少しでも示すことが出来たと考えています。

我が国は超高齢化社会を乗り切らなくてはならないため、全国の高齢者が積極的に運動を行い、健康寿命をのばし、国民が元気になる処方箋が必要です。健康な高齢者に健康を維持して頂く事はもちろん、本大会で充分研究され、議論されています。さらに、本大会では、誤解を恐れずに言い切ることにより、様々な疾病や障害をかかえても、可能な限り運動を行い、寿命が尽きるまで「元気に」生活する処方箋も多少提案できたと考えます。

和歌山大会のコンセプトである、運動がヒトの健康維持増進に大きく寄与する点をさらに推し進め、医療においても安静臥床を廃し、様々な疾病に対し、発症と同時に起立・運動負荷をかけることが少しでも提示出来たかと自負しております。

この急性期リハビリテーションはエビデンスをもって推奨されるまでになっています。いかなる高齢者や障がい者にも限界までの運動負荷を行うためには、障がい者スポーツの医科学研究知見がもっとも有用です。つまり、障がい者スポーツの医科学研究を通じて、積極的に国民の健康増進に寄与するという観点が必要と考えます。また、どのような障がい者であっても、スポーツを通じて精神と肉体を鍛え上げ、最高のパフォーマンスを発揮する姿は、我々に感動を与えてくれます。

これまで通りの健康維持・増進のための運動・スポーツ推進を行うと同時に、いかなる人に対しても医科学的検討を行い、それぞれの人に最適で最高の運動・スポーツ参加を推進する事を提言する事を、体力医学会の新たな方向に加えて頂けましたら和歌山大会を開催した甲斐がございます。

「無理しないで」ではなく、「ここまで無理して良い」または「これ以上は無理しないといけない」という線を明確にしなくてはならないと考えます。その上での運動・スポーツを推進する。しかし、そこまでは、和歌山大会では提言出来なかったのが残念です。この実現のための体力医学のさらなる発展を望みます。

和歌山大会は和歌山大学と和歌山県立医科大学が協力し、オール和歌山で開催いたしました。さらに、準備途中で順天堂大学にご栄転された和気秀文先生、京都府立医科大学に移籍された伊藤倫之先生、途中から加わって下さった村瀬浩二先生、上條義一郎先生、大会の準備から運営までをサポート下さいました株式会社セレスポ様、抄録作成にご尽力頂きました鶴岡印刷様、その他ご協力を頂きました皆様方に心より感謝申し上げます。

これほど大きな大会を開催するに当たりましては、不行き届きな点多々ございました。この場をおかりしてお詫び申し上げます。実行委員会が手弁当で行った手作りの会でしたので、ご理解頂ければ幸いです。

繰り返しになりますが、実行委員会を代表し、会員の皆様、ご参加下さいました皆様のご多幸をお祈りし、感謝の言葉とさせていただきます。

# 一般社団法人 日本体力医学会 定款

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本体力医学会と称する。英語名は、The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicineと表示する。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に設置することができる。

### (地方会)

第3条 この法人は、社員総会の議決を経て、地方会を置くことができる。

2 地方会の組織及び運営に関し必要な規定は、理事会において定める。

## 第2章 目的及び事業

### (目 的)

第4条 この法人は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかり、もって我が国の学術の発展に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 体力医学に関する学術講演会などの開催
- (2) 機関誌その他の刊行物の発行
- (3) この法人が関係する内外の関連団体との連絡及び協力
- (4) 研修会の実施と称号の授与
- (5) 体力医学の振興ならびに、普及、啓発
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### (学術講演会)

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

2 国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会は、この法人の学会大会として、原則として国民体育大会の開催地で行われる。

## 第3章 会 員

### (法人の構成員)

第7条 この法人の会員は、次の3種とする。

- (1) 正 会 員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 名誉会員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

2 この法人は、正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

### (入 会)

第8条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

### (経費の負担)

第9条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、毎年、会員は、社員総会において別に定める額の会費を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

2 既納の会費は、いかなる場合でも返還しない。

### (任意退会)

第10条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

### (除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。



(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第12条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第9条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

## 第4章 社員総会

(構成)

第13条 社員総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第14条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 事業報告及び貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）等の承認
- (5) 会費の額
- (6) 理事会で付議したもの
- (7) 定款の変更
- (8) 解散及び残余財産の処分
- (9) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 社員総会は、定時社員総会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時社員総会を開催する。

(招集)

第16条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 社員総会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う。
  - (1) 会員の除名
  - (2) 監事の解任
  - (3) 定款の変更
  - (4) 解散
  - (5) その他法令で定められた事項
- 3 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって議決権を行使し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 4 前項の場合における第1項、第2項の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

## 第5章 役員等

(役員の設定)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上25名以内
- (2) 監事 4名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名を副理事長、1名を常務理事とする。
- 3 理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副理事長及び常務理事を業務執行理事とする。

**(役員を選任)**

- 第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。
- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
  - 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
  - 4 役員を選出についての細則は別に定める。

**(理事の職務及び権限)**

- 第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
  - 3 副理事長及び常務理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を分担執行し、理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、その職務を代行する。
  - 4 理事長、副理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

**(監事の職務及び権限)**

- 第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

**(役員任期)**

- 第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続4期までとする。
- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続3期までとする。
  - 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
  - 4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

**(役員解任)**

- 第26条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

**(役員報酬等)**

- 第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

**第6章 理事会****(構成)**

- 第28条 この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

**(権限)**

- 第29条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
  - (2) 理事の職務の執行の監督
  - (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職
  - (4) 社員総会に付議すべき事項の決定
  - (5) 細則及び規則類の制定、同改廃の決定

**(招集)**

- 第30条 理事会は、理事長が招集する。

**(議長)**

- 第31条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

**(決議)**

- 第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面・メール又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。但し、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

**(議事録)**

- 第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。  
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

**第7章 評議員及び評議員会****(評議員)**

- 第34条 この法人に、評議員を置く。  
2 評議員は、理事会で選任する。  
3 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ、意見を述べることができる。  
4 評議員の互選により、評議員会長を置く。

**(評議員会)**

- 第35条 評議員会は、毎事業年度に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。  
2 評議員会は、評議員会長が招集する。  
3 評議員会の議長は、評議員会長とする。  
4 評議員会は、理事会の諮問に応じ、第14条に定める社員総会の決議事項のほか、この法人の運営全般について意見を述べるができる。  
5 評議員会の決議は、評議員現在数の過半数が出席し、出席した当該評議員の過半数をもって行う。

**第8章 資産及び会計****(事業年度)**

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

**(事業計画及び収支予算)**

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。  
2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。  
3 第1項で承認された事業計画・収支予算は直近の社員総会に報告しなければならない。

**(事業報告及び決算)**

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。  
(1) 事業報告  
(2) 事業報告の附属明細書  
(3) 貸借対照表  
(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）  
(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書  
2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（また、従たる事務所に3年間）備え置くものとする。  
(1) 監査報告  
(2) 理事及び監事の名簿

**(剰余金の分配)**

- 第39条 この法人は、剰余金の分配は行わない。

**第9章 定款の変更及び解散****(定款の変更)**

- 第40条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

**(解 散)**

- 第41条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

**(残余財産の帰属)**

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

**第10章 公告の方法****(公告の方法)**

- 第43条 この法人の公告は、この法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。



## 第11章 事務局

### (事務局の設置等)

- 第44条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置する。
- 2 事務局には、所要の職員を置く。
  - 3 職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
  - 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により理事長が別に定める。

## 第12章 補 則

### (委 任)

- 第45条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する事項は、理事会の決議により別に定める。ただし、この定款の施行についての細則は、理事会及び社員総会の決議を経て、別に定める。

## 附 則

- 1 この法人は、その主たる事務所の所在地において設立の登記をすることにより成立する。
- 2 任意団体の日本体力医学会の正会員、名誉会員、賛助会員であつて、第7条に規定する正会員、賛助会員の資格を有する者及び団体は、第8条の規定にかかわらずこの法人成立の日にこの法人に加入したものとみなす。
- 3 任意団体の日本体力医学会の評議員は、この法人成立の日にこの法人の評議員に選任されたものとみなす。
- 4 この法人の最初の理事の任期は、平成27年開催予定の定時社員総会終結の時までとする。
- 5 第7条第2項の規定にかかわらず、この法人の設立時社員は、次のとおりとする。
 

設立時社員（住所記載省略）	下 光 輝 一
設立時社員（住所記載省略）	小 野 寺 昇
- 6 この法人の設立時役員は、次のとおりとする。
 

設立時理事	荒 尾 孝
設立時理事	碓 井 外 幸
設立時理事	大 野 誠
設立時理事	小 野 寺 昇
設立時理事	勝 村 俊 仁
設立時理事	川 久 保 清
設立時理事	川 原 貴
設立時理事	栗 原 敏
設立時理事	坂 本 静 男
設立時理事	定 本 朋 子
設立時理事	下 光 輝 一
設立時理事	下 村 吉 治
設立時理事	鈴 木 政 登
設立時理事	武 政 徹
設立時理事	竹 森 重
設立時理事	田 中 喜 代 次
設立時理事	田 中 宏 暁
設立時理事	田 畑 泉
設立時理事	鳥 居 俊
設立時理事	永 富 良 一
設立時理事	西 平 賀 昭
設立時理事	浜 岡 隆 文
設立時理事	福 永 哲 夫
設立時理事	山 内 秀 樹
設立時理事	吉 岡 利 忠
設立時代表理事	下 光 輝 一
設立時監事	小 林 康 孝
設立時監事	能 勢 博

# 一般社団法人 日本体力医学会 定款施行細則

## 第1章 通 則

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会費、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規程を設ける。

## 第2章 会 費

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 年額 10,000円
- (2) 賛助会員 年額 1口以上（1口50,000円）
- 2 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。
- 3 正会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。
- 4 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

## 第3章 評議員の選出等

第3条 評議員の選出は、推薦された評議員候補のうちから選考委員会の議を経て、評議員会で選任する。

- 2 評議員の選出に必要な事項は、別に「評議員選考内規」に定める。

## 第4章 理事候補及び監事候補の選出等

第4条 理事候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、評議員による選挙によって選出する。

## 第5章 委 員 会

第5条 この法人にその事業遂行のために、次の常設委員会を置く。

- (1) 総務委員会
- (2) 編集委員会
- (3) 学術委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 評議員選考委員会
- (6) 渉外委員会
- (7) 倫理委員会
- (8) 利益相反委員会
- 2 各常設委員会の任務、任期、定員等は、別に定める。

第6条 この法人に、常設委員会の他、総会又は理事会の決議により必要があると認めるときは特定の事項を行わせるため特別委員会を置くことができる。

## 第6章 学術講演会、大会長等

第7条 学術大会に大会長を置く。

第8条 大会長は、理事会が推薦し、社員総会で選任する。

- 2 大会長は、当該年度の学術集会を組織し運営にあたる。
- 3 学術集会の運営等に関する規程は、別に定める。

第9条 大会長は、理事長の判断により必要な理事会に出席する。但し、議決権を持たない。

第10条 この法人は、理事会の議を経て、学術講演会、研修会、市民公開講座等を開催できることとする。

## 第7章 顧 問

第11条 この法人に、1名以上5名以内の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、この法人における理事長の経歴を有する者で、次の職務を行う。
  - (1) 理事長の相談に応ずること。
  - (2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。
- 3 顧問の選任及び解職は、理事会において決議する。
- 4 顧問は、無報酬とする。

## 第8章 表 彰

第12条 この法人は、日本体力医学会学会賞等を設ける。各賞に関する事項は、学会賞選考委員会規程に定める。

## 第9章 補 則

第13条 この細則の変更は、社員総会の決議を経なければならない。

## 附 則

1. この細則は、この法人成立の日から施行する。



## 体力科学投稿規定

改訂：2015（平成27）年12月1日

### I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

### II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

### III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor、議事録、学会記事、会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor、議事録、学会記事、会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hjt-tairyoku@turuin.co.jp

### IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
  - 本文ファイル：Microsoft Office Word
  - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
  - 6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。

例1：長島<sup>1)</sup>によれば……………

例2：手島と角田<sup>2)</sup>によれば……………

例3：馬ら<sup>3)</sup>によれば……………

4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。

2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。

例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.

例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.

例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.

3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

4) 訳本から引用する場合

著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。

例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）, 運動処方





の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.

5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート, 資料および事例報告 (症例報告を含む)

原著及び総説の投稿規定に準ずる. 但し, ノートおよび事例報告 (症例報告を含む) は原則として刷り上がり 4 頁以内, 図表は 2 点までとする.

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は, 体力科学編集委員会の依頼による.

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり 10 頁以内を原則とする.

2) いずれの原稿も表題, 著者名, 所属などは体力科学投稿規定 V-A に準じて英文名を附す. 教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが, 依頼総説では体力科学投稿規定 V-A に準ずる.

D. 地方会の抄録

原稿は, 一編 900 字以内で表題, 著者名, 所属, 本文を和文で記す.

※提出期限に遅れた場合, 本誌に掲載されない.

E. その他 (Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など)

※Letter to the Editorの項では, 本誌に掲載された原著, 総説, その他の掲載内容についての質問, 疑問, コメント等を編集委員会に寄せ, それに対する回答を執筆者に求め, その内容を掲載する. 質問者も回答者もすべて実名とする.

## VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では, その実験は1964年のヘルシンキ宣言 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) で承認された倫理基準, または2014年12月に文部科学省および厚生労働省により制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf>) に従って実施されなければならない. また, ヒト遺伝子を取り扱う実験は, 日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究 ([http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html)) に従ってなされなければならない. 日本体力医学会編集委員会では, 所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける. 当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し, さらに所属機関の倫

理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（[http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものはなし」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。



## 論文の分類

### I 生理科学的研究

- I-1 神経, 感覚
  - I-1-a 末梢神経
  - I-1-b 中枢神経
  - I-1-c 感覚
  - I-1-d 運動制御
- I-2 運動器
  - I-2-a 筋生理
  - I-2-b 筋生化学
  - I-2-c 骨, 関節
- I-3 呼吸, 循環
  - I-3-a 呼吸
  - I-3-b 心臓
  - I-3-c 末梢循環
- I-4 血液, 免疫
  - I-4-a 血液
  - I-4-b 免疫
- I-5 体液, 内分泌
  - I-5-a 体液, 汗, 尿
  - I-5-b 内分泌
- I-6 代謝
  - I-6-a エネルギー代謝
  - I-6-b 糖代謝
  - I-6-c 蛋白代謝
  - I-6-d 脂質代謝
- I-7 栄養, 消化
  - I-7-a 栄養
  - I-7-b 消化, 吸収
- I-8 形態, 体構成
- I-9 加齢, 性差
  - I-9-a 発育発達
  - I-9-b 老化
  - I-9-c 性差
- I-10 環境
  - I-10-a 温湿度
  - I-10-b 気圧, 風圧
  - I-10-c 低酸素
  - I-10-d 高酸素

- I-11 トレーニング
  - I-11-a 呼吸, 循環
  - I-11-b 代謝
  - I-11-c 筋骨格系他
  - I-11-d 体組成
  - I-11-e その他
- I-12 生活, 健康
  - I-12-a 休養, 疲労
  - I-12-b 健康管理
  - I-12-c 疫学
- I-13 バイオメカニクス
  - I-13-a 力学的情報
  - I-13-b 動作分析
  - I-13-c その他
- I-14 遺伝子
  - I-14-a 遺伝子多型
  - I-14-b 遺伝子制御
  - I-14-c その他
- I-15 その他

### II スポーツ医学的研究

- II-1 スポーツと疾患
  - II-1-a 呼吸器疾患
  - II-1-b 循環器疾患
  - II-1-c 代謝疾患
  - II-1-d スポーツ外傷
  - II-1-e スポーツ障害
  - II-1-f スポーツ歯科
  - II-1-g その他の疾患
- II-2 リハビリテーション, 運動療法
  - II-2-a リハビリテーション
  - II-2-b 運動療法
- II-3 薬物, ドーピング
- II-4 スポーツ心理学
- II-5 その他

## JPFSM : Instructions for Authors

December 1, 2015

*An Official Journal of the Japanese Society of  
Physical Fitness and Sports Medicine*

### **The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors**

**The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)** is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. If English is not the authors' first language, the Editorial Committee recommends the manuscript receives professional editing service before submitting their manuscript to the Journal. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

#### **1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)**

The Journal publishes six types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 or less printed journal pages.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 or less printed pages.
- 3) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 or less printed pages.
- 4) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors' own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 or less printed pages.
- 5) **Letters to the Editor:** Constructive comments and data on papers published in this Journal will be considered. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. A letter, data and the authors' reply are limited to a printed page each.



**6) Proceedings:** Proceedings provide short summaries of in-progress or completed primary studies that have been presented at the General Sessions of the Annual Meeting of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, but have not yet been fully peer-reviewed for publication as complete articles. Proceedings (up to 1,800 characters) will be published in Volume 6 of the journal.

## 2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members.
- 3) Authors should submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.
- 4) Proceedings have not yet been fully peer-reviewed for publication as other articles.

## 3. SUBMISSION GUIDELINES

- 1) The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".  
<http://www.editorialmanager.com/jpfsj/>
- 2) Proceedings must be submitted through the Annual Meeting website by the submission deadline. Proceedings submission guidelines will be available on the website.

## 4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine  
Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan  
**E-mail: [hj-tairyoku@turui.co.jp](mailto:hj-tairyoku@turui.co.jp)**

## 5. MANUSCRIPT PREPARATION

### 1) Cover Letter

The “**Required Submission Form**” should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author’s name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author’s name and address should be written in Japanese as well as English.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

### 2) Manuscript

Authors should use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

**(1) Title page** The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). The corresponding author's e-mail address should be included in the title page. An asterisk(\*) should be added to the right of the corresponding author’s name.

**(2) Abstract and Keywords** Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese, if a manuscript is written by Japanese authors.

**(3) Main text** The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and



“Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”)., acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, authors will require to formally submit their paper in electronic format.

## 6. MANUSCRIPT FORM

**1) Affiliations** When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript 1, 2, 3... placed after each author's name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

<sup>1</sup>Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

<sup>2</sup>Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

<sup>3</sup>Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan

<sup>4</sup>Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan

**2) Abbreviations** Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Authors should limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD<sub>50</sub>, FAD, FMN, GMP, P450, *etc.*

**3) Units** The following units should be used: length (m, cm, mm, μm, nm), mass (kg, g, mg, μg, ng, pg, mol, mmol, μmol, nmol), volume (l, ml, μl), time (s, min, h, d), temperature (°C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μg/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

**4) Nomenclature** The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

**5) Tables** Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend etc. under the table.

**6) Figures** Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading “Figure Legend”.

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should be marked with the first author's name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

**7) References** References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text. Indication of doi is encouraged.

Examples of references are as follows:

- 1) Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct β-adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.
- 2) Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247. doi:10.3177/jnsv.52.233.



- 3) Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K and Imaizumi K. 2008. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400. doi:10.1254/jphs.08097FP.
- 4) Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagasaki M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.
- 5) Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (in Japanese). doi:10.7600/jspfsm.60.279.

## 7. ETHICS / Conflicts of Interest (COI)

- 1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 ( <http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/> ) and/or Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects ( <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000080278.pdf> ), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese Government's "Ethical Guidelines for Human Genome/ Gene Analysis Research" ( [http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html) ). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate Institutional Ethics Committee (IEC) will be accepted for publication. "Materials and methods" sections on research using human subjects or samples must include ethics statements that specify: the study was carried out in accordance with the appropriate guidelines, and the name of the approving institutional review board or equivalent committee(s) with the approval number.
- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. "Material and methods" sections of manuscripts reporting results of animal research must include required ethics statements that specify: the study was conducted according to the appropriate guidelines, the full name of the institutional Animal Care and Use Committee or equivalent ethics committee that approved the work, and the associated permit number(s).
- 3) When submitting reviews, original articles, and articles equivalent to these, the guidelines for a conflict of interest (COI), as related to operations implemented by the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, shall be followed ([http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)). In the event the guidelines are partially applicable, ([http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)), the relevant portion(s) should be described in the "Declaration of Conflict of Interest by Self-report" (Attached Form 1) and submitted to the Editorial Board. In the event the guidelines are not applicable to the regulated conflict of interest condition, this should be declared by writing "Conflict of Interests: The author(s) declare that there is no conflict of interests regarding the publication of this article" at the end of the article.

## 8. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

## 9. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	3,000	15,000
Short Communication	3,000	15,000
Review (submitted)	3,000	15,000
Short Review (submitted)	3,000	15,000
Letters to the Editor	0	0

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

## 10. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

### Categories covered

- |                                      |  |                                   |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 Nervous and sensory system         | 2 Motor control                        | 3 Musculoskeletal system          |
| 4 Respiratory and circulatory system | 5 Hematology and immunology            | 6 Humor and endocrinology         |
| 7 Metabolism                         | 8 Nutrition and digestion              | 9 Morphology and body composition |
| 10 Aging and gender difference       | 11 Environmental physiology            | 12 Exercise training              |
| 13 Lifestyle and health              | 14 Biomechanics                        | 15 Genes and gene regulation      |
| 16 Sports medicine and diseases      | 17 Rehabilitation and exercise therapy | 18 Drug and doping                |
| 19 Sports psychology                 | 20 Miscellaneous                       |                                   |

## ご 案 内

### 〈各種手続方法〉

	連 絡 先	住 所	電 話 番 号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学会事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階 E-mail: jspfsm@asas.or.jp	TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦 が必要 入会はHPより登録
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,960円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は <a href="http://www.editorialmanager.com/jspfsm/">http://www.editorialmanager.com/jspfsm/</a>	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp	0235(22)3120 TEL, FAX 共通	和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと
英文誌の投稿は <a href="http://www.editorialmanager.com/jpfsm/">http://www.editorialmanager.com/jpfsm/</a>	「JPFISM」編集事務局	〃	〃	英文誌「JPFISM」 投稿規定はHP参照のこと

### 〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒060-0811 北海道札幌市北区北11条西7丁目  
北海道大学大学院教育学研究科人間発達科学分野・体力科学研究室  
水野 眞佐夫  
TEL : 011(706)5440 (FAX共通)  
E-mail : mizuno@edu.hokudai.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1  
福島大学人間発達文化学類  
安田 俊広 (事務局長)  
TEL : 024(548)8209 (FAX共通)  
E-mail : yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 関東地方会 〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号  
東京慈恵会医科大学・分子生理学講座・体力医学研究室  
竹森 重・山内 秀樹 (事務局担当 田口 美香)  
TEL : 03(5400)1200 (内線2216)  
FAX : 03(3431)3827  
E-mail : mol-phys@jikei.ac.jp
- 北陸地方会 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1  
金沢医科大学病院総合診療センター  
田村 暢熙 (事務局長: 中川 明彦)  
TEL : 076(286)2211 FAX : 076(218)8090  
E-mail : tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒467-0867 名古屋市瑞穂区春敲町2-13  
愛知みずほ大学大学院人間科学研究科  
佐藤 祐造  
TEL : 052(882)1123 FAX : 052(882)1124  
E-mail : uz-sato@mizuho-c.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野  
吉川 貴仁  
TEL : 06(6645)3790 FAX : 06(6646)6067  
E-mail : wsports@med.osaka-cu.ac.jp
- 中国・四国地方会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288  
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科  
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)  
TEL : 086(462)1111(内線 54041, 54835)  
FAX : 086(464)1109  
E-mail : jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp  
URL: <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/sports/jspfsm-chushi/>

### 〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE  
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:  
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA  
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports  
Medicine, 319 Longwood Avenue,  
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA  
Tel : +617 355 6970  
Fax: +617 730 0694  
Email: michelilyle@aol.com  
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2015年9月）議事録

日時：2015年9月17日(木) 午後5時30分～6時30分

場所：和歌山県民文化会館 6階 特別会議室B

議長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、碓井外幸、大野 誠、小野寺昇、  
勝村俊仁、栗原 敏、坂本静男、鈴木政登、  
武政 徹、竹森 重、鳥居 俊、永富良一、  
西平賀昭、山内秀樹、吉岡利忠各理事、  
小林康孝監事、  
田島文博（第70回大会長・和歌山）、  
立身政信（第71回大会長・岩手）

欠席者：荒尾 孝、川久保清、川原 貴、定本朋子、  
下村吉治、田中喜代次、田中宏暁、田畑 泉、  
浜岡隆文、福永哲夫各理事、能勢 博監事

はじめに第70回和歌山大会の田島文博大会長より挨拶をいただいた。

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

#### 2. 監事の当選人数について（下光理事長）

持ち回り審議で議決した監事の当選人数について、再度審議をしたいと提案があり、了承された。再度本理事会で審議をした結果、監事の当選人数は4名で承認され、監事選挙の得票数の4番目の清田寛会員を社員総会で提案する事となった。

#### 3. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®新規申請者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の新規申請者6名の氏名リストが提示され、承認された。

#### 4. 日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー称号贈呈者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会名誉健康科学アドバイザーの新規贈呈対象者2名の氏名リストが提示され、承認された。

#### 5. 理事長推薦理事について（下光理事長）

役員選挙で選ばれた理事以外の理事候補者について、甲斐裕子先生（公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所/副主任研究員）を社員総会に推薦したいと提案があり、承認された。

#### 6. 学会賞選考委員会委員について（竹森総務委員）

今年度で学会賞選考委員の半数の5名が交代となるため、次期委員名簿案が提示され、承認された。（新委員長：浜岡隆文理事）

#### 7. 和歌山大会について（竹森総務委員）

総務委員会より第72回愛媛大会の大会長候補者として、「三浦裕正先生（愛媛大学医学部附属病院・病

院長）」を社員総会に推薦したいと提案がなされ、承認された。

### 【報告事項】

#### 1. 理事会申し送りについて（下光理事長）

提出資料に基づき、今期の委員会より次期委員会への申し送り事項を提出いただいたと報告がなされた。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 総務委員会（竹森総務委員）

第70回大会第1日目に地方会代表者会議を開催し、本部会計と合算した地方会会計について等、話し合う機会を設ける予定であると報告された。

##### 2) 編集委員会（鈴木委員長）

・英文抄録について第71回岩手大会の時からJPFISM 6号に大会抄録号として載せる事は既に報告済みであることが説明され、今年の社員総会でも改めて会員に周知すると報告された。

・JPFISMの投稿状況は、2014年9月～2015年9月8日までの投稿件数は25編（内、海外から5編）、体力科学の投稿状況は55編で体力科学と投稿件数は減っているが、JPFISMの投稿件数は増えており、昨年と同程度の投稿件数であると報告された。

・JPFISMのMEDLINEへの申請について、インパクトファクターが現在「0.3」であり、「0.6」以上ないと掲載は難しいと報告された。また、論文へのアクセス件数は去年の22,000件から、今年は73,000件に増加している状況が説明され、引き続き論文引用件数を増やす努力を行いたいと報告された。

・J-STAGEより、大会予稿集をJ-STAGEに掲載しないかと連絡があったと報告された。委員会で検討した結果、発表内容は6号で掲載を行っているため、予稿集についてはJ-STAGEには掲載しないという結論になった旨、報告された。

##### 3) 学術委員会（碓井委員長）

理事会前に開催した委員会にて、スポーツ医学研修会の在り方について、講義内容・会場・講師の選定について検討したことが報告された。また、プロジェクト研究委員会ではスケジュールを前倒しにすることや、予算について検討したことが報告された。

##### 4) 財務委員会（勝村委員長）

来期は英文誌JPFISMが6号発行されるので、その分支出が増え、収入増加について引き続き検討したいと報告があった。

##### 5) 渉外委員会（永富委員長）

理事会前に開催した委員会にて以下の点について議論を行ったと報告があった。

- ・活動状況の見える化。
- ・会員へのアンケート調査は次期体制になってから開始予定。
- ・アジアとの連携について、会員のためになるような地域に活動を広げていくこと。



3. 第71回大会（岩手）の準備状況について  
（立身第71回大会長）  
大会の準備状況等について報告がなされた。  
会 期：2016年9月23日（金）-25日（日）

会 場：アイーナ、マリオス  
テーマ：東北の再生と復興をめざすスポーツ振興と体力医学

## 一般社団法人日本体力医学会 平成27年度評議員会 議事録

日 時：2015年9月19日（土）  
午後1時30分～午後2時30分  
場 所：和歌山県民文化会館 大ホール（A会場）  
議 長：福永哲夫  
出席理事監事：下光輝一，荒尾 孝，碓井外幸，  
大野 誠，小野寺昇，勝村俊仁，  
川原 貴，栗原 敏，坂本静男，  
下村吉治，鈴木政登，武政 徹，  
田中喜代次，田畑 泉，鳥居 俊，  
永富良一，西平賀昭，福永哲夫，  
山内秀樹各理事，小林康孝監事  
議事録作成者：福永哲夫

議事に先立ち、下記の項目について報告・承認が行われた。

- ・田島大会長より、挨拶と第70回大会概要の報告が行われた。
- ・評議員会は評議員総数522名の内、委任状出席251名、午後1時25分現在の出席者82名、評議員総数の過半数261名を超えており、成立することが確認された。

### 【審議事項】

#### 1. 平成27年度庶務報告に関する件 （小野寺総務委員長）

##### 1) 会員総数4,429名（2015年7月31日現在）

名誉会員	30名
正 会 員	4,379名
外国会員	15名
賛助会員	5団体

公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団、鶴岡印刷株式会社、株式会社ブルボン、公益財団法人明治安田厚生事業団、大正製薬株式会社

##### 2) 役員数

評 議 員	522名
（内）理事	25名
監 事	2名

##### 3) 購読数

体力科学	151団体
JPFMS	3団体

##### 4) 年度内入退会状況

新入会員	362名
退 会 者	648名
（内）申込者	175名
自 然 退 会	473名

#### 2. 平成27年度事業報告に関する件 （小野寺総務委員長）

以下のとおり平成27年度事業報告についての報告がなされた。

##### 1) 事業期間

2014年8月1日～2015年7月31日

##### 2) 委員会活動

###### ・総務委員会

◎一般社団法人日本体力医学会ロゴマークを制定。

###### ・編集委員会

◎学会誌出版（学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開）

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMS)」

Vol.3, No.3, No.4, No.5, Vol.4, No.1, No.2

「体力科学」

Vol.63, No.4, No.5, No.6, Vol.64, No.1, No.2, No.3

※電子ジャーナルの公開は、J-STAGE『印刷前公開』での実施。

◎第7回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・シンポジウム参加（2014.11.5）

◎委員会開催（2015.2.20）

###### ・学術委員会

◎スポーツ医学研修会実行委員会

○平成27年度（第26回）スポーツ医学研修会（Ⅰ）基礎コース（平成27年7月3～4日、於東京慈恵会医科大学）  
参加者：36名

※（Ⅱ）応用コース（平成27年8月7～8日、於東京慈恵会医科大学）  
参加者：27名

※修了試験（平成27年8月9日、於東京慈恵会医科大学）

###### ◎称号委員会

○「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」申請時に審査（委員会）→承認（理事会）→報告（総会）

###### ◎プロジェクト研究委員会

○平成27年度日本体力医学会プロジェクト研究公募（平成27年4月30日迄）

4件の応募があり、委員会で順位をつけ、持ち回り理事会で1件（代表者：田中千晶、桜美林大学）を採用。

###### ・財務委員会

平成28年度予算案の作成と予算の適切な執行の確認。

###### ・プログラム委員会

○日本体力医学会和歌山大会での理事会主催のシンポジウムの企画・運営

○第1回日本スポーツ体育健康科学学術連合シン

- ポジウムの企画・運営
- ・評議員選考委員会
 

主にメール会議で平成27年度の評議員選考を、提出された資料を基に選考し、理事会、評議員会・総会に諮った。
  - ・渉外委員会
- ◎海外交流
- ECSS-JSPFSM交流シンポジウム 2015 Malmo, 2015.6.26
 

永富良一（座長：東北大学）、藤田 聡（立命館大学）、Lars Holm（University of Copenhagen）
  - 第69回日本体力医学会大会国際セッション
  - ACSM参加助成（若手研究者・大学院生）
 

San Diego 2015.5.26～30

奥島 大 神戸芸術工科大学芸術工学部（若手ポスター）

安藤良介 名古屋大学大学院教育発達科学研究科（学生ポスター）
  - FIMS交流：理事会に参加
  - AFSM交流：理事会に参加
- ◎国内交流
- 「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2015」「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて」日本内科学会誌104巻4号 p824-860（ガイドライン委員会合同）
  - Exercise is Medicine検討小委員会設置
- ・倫理委員会
 

学会誌投稿希望者の倫理審査依頼への対応。
  - ・将来構想検討委員会
 

研究の進歩・発展を促進する方策として、本学会の海外交流を支援。

また、学会における会員管理を盤石なものにするための会員管理システムの導入を検討。
  - ・広報委員会
 

学会ホームページの英文バージョンを作成。理事長からの挨拶文、利益相反（COI）に関する運用指針、「JPFSM」誌への投稿規定等を掲載。
  - ・男女共同参画推進委員会
- ◎委員会を1回開催（2014.9.19）。
- ◎第69回日本体力医学会大会（長崎）において、男女共同参画を推進する目的のシンポジウム「日本体力医学会新評議員の研究・キャリア」を実施（9月20日（土））。
- ・ガイドライン検討委員会
- ◎渉外委員会とともに、脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2015作成に内科学会関連団体として参加、協力。
- 脳心血管病予防に関する包括的リスク管理合同会議：脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて。日本内科学会雑誌2015；104(4)：824-860
- ◎日本体力医学会禁煙宣言の作成に着手、中断中。
- ・利益相反委員会
 

「日本体力医学会における事業遂行に係る利益相

反（COI）に関する指標」

日本体力医学会学術集会発表時におけるCOI呈示の徹底の指示。

### 3) 第69回日本体力医学会大会の実施

大会長：管原正志（西九州大学教授、長崎大学名誉教授）

会期：2014年9月19日（金）～21日（日）

会場：長崎大学文教キャンパス

### 4) 平成28年度日本体力医学会健康科学アドバイザー®称号認定者

・新規 4名（第25回研修会）

宗 まりこ 野間 遥香 真家 克夫

三浦 恭子

・新規 6名（第26回研修会）

植村 望 佐藤 恵子 志内 哲也

成川 真隆 原 雅一 山野井好晴

・継続 14名

青木 昌弘 五十嵐貴仁 今永一成

小貫 睦巳 表 郁夫 新矢 博美

高寄 正樹 田口 太郎 田崎 博識

張間 裕子 松山 茂 三輪 雅子

村瀬 智彦 柳 沼章弘

・終身 4名

石井 緑 河田 繁治 松元 義人

山口 正信

### 5) 平成28年度日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー称号贈呈者

下村 吉治 西平 賀昭

## 3. 平成27年度会計（決算）に関する件

（勝村財務委員長）

以下のとおり平成27年度決算についての報告がなされた。

まず、今期決算より大会決算及び地方会決算が合算したと説明がなされた。

収入の部 予算に比べて会費収入と論文掲載料等収入が約25万円ずつ増収、雑収入が約40万円増収（計上済みの仮受金の処理）した結果、年度内収入は93,436,094円であった。

支出の部 予算に比べて事業費は約315万円削減し、管理費は予算より約90万円削減し、地方会基金を約450万円計上した結果、全体の支出はほぼ予算額通りで、年度内支出としては90,683,756円であった。

以上により当年度収支としては約275万円の黒字となり、次年度繰越金は50,717,028円になったとの報告があった。本決算については公認会計士によるチェックが行われている事が併せて報告があり、引き続き小林監事より監査報告が行われた。

## 4. 平成28年度事業計画に関する件

（小野寺総務委員長）

以下のとおり平成28年度事業計画についての報告がなされた。

### 1) 事業期間

2015年8月1日～2016年7月31日

### 2) 委員会活動

- ・総務委員会  
第73回福井大会の大会長の推薦。
  - ・編集委員会  
体力科学 Vol.64-4~65-3 及び JPFISM Vol.4-3~5-2 の発行、公開。  
学会大会終了後の抄録を英文とし、JPFISM に掲載運用試行。
  - ・学術委員会
    - ◎スポーツ医学研修会実行委員会  
第27回スポーツ医学研修会の実施（学会HP・体力科学に案内を掲載）。
    - ◎プロジェクト研究委員会  
プロジェクト研究の課題
      - 1) 健全な発育・発達に資する研究
      - 2) 中高齢者の健康長寿に資する研究
      - 3) アスリートの障害予防または競技力向上に資する研究
      - 4) そのほか（特別な学術的貢献が期待できる課題）
 採択件数 原則として1件以内  
 助成額 年間100万円以内  
 助成期間 2 - 3年
    - ◎称号委員会  
日本体力医学会健康科学アドバイザー®の審査をスポーツ医学研修会後の申請により実施。
  - ・財務委員会  
平成29年度予算案の作成。
  - ・プログラム委員会  
学会大会における理事会・大会実行委員会共催のシンポジウムを開催。  
日本体育連合学術会議におけるシンポジウムの開催。
  - ・評議員選考委員会  
大会前の機関紙にこれまで通りに評議員推薦のためのレジメを入れ、会員に評議員の資格を徹底させ、評議員推薦を促す。
  - ・渉外委員会  
関連国際学会及び国内学会との交流事業。
  - ・倫理委員会  
学会発表、論文発表における倫理規定遵守の推進と監視。
  - ・将来構想検討委員会  
平成27年度事業計画である「(1) 研究の進歩、発展を促進する活動」および、「(2) 学会の基盤を固めて安定した学会の運営を可能にすること」をさらに推進。  
学会の基盤安定化のための方策として、会員へのメールニュースを定期的に発信、学会の状況および活動の周知、学会ホームページの掲載事項の連絡、会費納入の要請等を行う。
  - ・広報委員会  
ホームページの充実、その他本学会に関わる事項の広報活動。
  - ・男女共同参画推進委員会  
日本体力医学会の意思決定における男女共同参画の推進を可能とする方策について論議。
  - ・ガイドライン検討委員会  
禁煙宣言の作成等、ガイドライン作成の方向性を検討する。
  - ・利益相反委員会  
利益相反に関する指針の改定。
- 3) 第70回日本体力医学会大会の実施  
 大会長：田島文博（和歌山県立医科大学リハビリテーション科教授）  
 会期：2015年9月18日(金)~20日(日)  
 会場：和歌山県民文化会館、ホテルアバローム紀の国
- 4) 第71回日本体力医学会大会の準備  
 大会長：立身政信（岩手大学保健管理センター教授）  
 会期：2016年9月23日(金)~25日(日)  
 会場：マリオス、アイーナ
5. 平成28年度会計報告（予算）に関する件  
 （勝村財務委員長）  
 平成28年度予算案が提示され、次年度予算と大きく異なる点として、下記の項目について説明が行われた。  
 ・平成27年度に実施しなかった名簿作成を行うこと。  
 ・別途積立金預金を取崩し赤字部分の補填を行うこと。  
 また、それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し、平成28年度の当期収支としては0円となる旨の報告がなされた（収入合計89,551,676円、支出合計89,551,676円の予定）。
6. 名誉会員推薦に関する件（小野寺総務委員長）  
 名誉会員選考委員会（総務委員会兼務）にて名誉会員推薦内規に基づき以下の3名の候補者が推薦された旨の報告がなされた。  
 小林寛道、福永哲夫、吉岡利忠（敬称略）
7. 評議員推薦に関する件（小野寺総務委員長）  
 平成27年度評議員推薦に関しては32名の推薦があり、評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い、その結果32名全員について評議員資格を有するとの報告に基づき、審議の結果、承認された。
- 新評議員（32名）
- |       |       |      |
|-------|-------|------|
| 安藤大輔  | 江川賢一  | 小倉裕司 |
| 尾崎隼朗  | 河合美菜子 | 川上諒子 |
| 丸藤祐子  | 岸本裕歩  | 北湯口純 |
| 熊原秀晃  | 栗原隆   | 黒坂光寿 |
| 小池晃彦  | 櫻井拓也  | 笹井浩行 |
| 芝崎学   | 高田真吾  | 西島壮  |
| 早田剛   | 古市泰郎  | 本間俊行 |
| 眞鍋康子  | 宮武伸行  | 村岡慈歩 |
| 本山貢   | 森田憲輝  | 門間陽樹 |
| 柳谷登志雄 | 山北満哉  | 山田実  |
| 山本直史  | 幸篤武   |      |
8. 役員改選に関する件（西平選挙管理委員長）  
 以下のとおり平成27年度社員総会後の役員について選挙結果の報告がなされた。

## 新理事（24名）

碓井外幸	大野 誠	小野寺 昇
勝村俊仁	川原 貴	栗原 敏
後藤勝正	坂本 静男	下光輝一
鈴木政登	須田和裕	武政 徹
竹森 重	田中喜代次	田畑 泉
内藤久士	永富良一	成田和穂
西平賀昭	西牟田 守	能勢 博
浜岡隆文	宮地 元彦	山内秀樹

## 新監事（4名）

井上 茂	小林康孝	定本 朋子
清田 寛		

また、下光理事長より、荒井（甲斐）裕子会員を理事長推薦理事とすることが報告された。

## 9. 第72回日本体力医学会大会（愛媛）開催について（小野寺総務委員長）

理事会から第72回（愛媛）大会長候補として三浦裕正会員（愛媛大学医学部附属病院病院長）が推薦されたことが報告された。

## 10. その他

- ・鈴木編集委員長より、大会で発表した演題を今までは抄録として体力科学（和文誌）の6号に掲載していたが、第71回大会（岩手大会）から発表した演題の抄録は英語で作成し、JPFMSM（英文誌）の6号に掲載することになると周知された。また、詳細についてはホームページに掲載予定であると報告された。
- ・立身政信第71回大会長より挨拶があった。

## 一般社団法人日本体力医学会 平成27年度社員総会 議事録

日 時：2015年9月19日（土）

午後2時30分～午後3時00分

場 所：和歌山県民文化会館 大ホール（A会場）

議 長：下光輝一

出席理事監事：下光輝一、荒尾 孝、碓井外幸、大野 誠、小野寺昇、勝村俊仁、川原 貴、栗原 敏、坂本静男、下村吉治、鈴木政登、武政 徹、田中喜代次、田畑 泉、鳥居 俊、永富良一、西平賀昭、福永哲夫、山内秀樹各理事、小林康孝監事

出席社員数：113名（議決権個数113個）

議事録作成者：下光輝一

議事に先立ち、田島大会長より、挨拶と第70回大会概要の報告が行われた。

## 【審議事項】

## 1. 平成27年度庶務報告に関する件

（小野寺総務委員長）

## 1) 会員総数4,429名（2015年7月31日現在）

名誉会員	30名
正会員	4,379名
外国会員	15名
賛助会員	5団体

公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団、鶴岡印刷株式会社、株式会社ブルボン、公益財団法人明治安田厚生事業団、大正製薬株式会社

## 2) 役員数

評議員	522名
（内）理事	25名
監事	2名

## 3) 購読数 154団体

体力科学	151団体
JPFMSM	3団体

## 4) 年度内入退会状況

新入会員	362名
------	------

退会者 648名

（内）申込者 175名

自然退会 473名

## 2. 平成27年度事業報告に関する件

（小野寺総務委員長）

以下のとおり平成27年度事業報告についての報告がなされ、承認された。

## 1) 事業期間

2014年8月1日～2015年7月31日

## 2) 委員会活動

・総務委員会

◎一般社団法人日本体力医学会ロゴマークを制定。

・編集委員会

◎学会誌出版（学会誌刊行に係わる事業及び電子ジャーナル公開）

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」

Vol.3, No.3, No.4, No.5, Vol.4, No.1, No.2

「体力科学」

Vol.63, No.4, No.5, No.6, Vol.64, No.1, No.2, No.3

※電子ジャーナルの公開は、J-STAGE『印刷前公開』での実施。

◎第7回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・シンポジウム参加（2014.11.5）

◎委員会開催（2015.2.20）

・学術委員会

◎スポーツ医学研修会実行委員会

○平成27年度（第26回）スポーツ医学研修会

（Ⅰ）基礎コース（平成27年7月3～4日、於東京慈恵会医科大学）

参加者：36名

※（Ⅱ）応用コース（平成27年8月7～8日、於東京慈恵会医科大学）

参加者：27名

※修了試験（平成27年8月9日、於東京慈恵会医科大学）



- ◎称号委員会
    - 「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」申請時に審査（委員会）→承認（理事会）→報告（総会）
  - ◎プロジェクト研究委員会
    - 平成27年度日本体力医学会プロジェクト研究公募（平成27年4月30日迄）
    - 4件の応募があり、委員会で順位をつけ、持ち回り理事会で1件（代表者：田中千晶、桜美林大学）を採用。
  - ・財務委員会
    - 平成28年度予算案の作成と予算の適切な執行の確認。
  - ・プログラム委員会
    - 日本体力医学会和歌山大会での理事会主催のシンポジウムの企画・運営
    - 第1回日本スポーツ体育健康科学学術連合シンポジウムの企画・運営
  - ・評議員選考委員会
    - 主にメール会議で平成27年度の評議員選考を、提出された資料を基に選考し、理事会、評議員会・総会に諮った。
  - ・渉外委員会
    - ◎海外交流
      - ECSS-JSPFSM交流シンポジウム 2015 Malmo, 2015.6.26
      - 永富良一（座長：東北大学）、藤田 聡（立命館大学）、Lars Holm（University of Copenhagen）
      - 第69回日本体力医学会大会国際セッション
      - ACSM参加助成（若手研究者・大学院生） San Diego 2015.5.26~30
      - 奥島 大 神戸芸術工科大学芸術工学部（若手ポスター）
      - 安藤良介 名古屋大学大学院教育発達科学研究科（学生ポスター）
      - FIMS交流：理事会に参加
      - AFSM交流：理事会に参加
    - ◎国内交流
      - 「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2015」「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて」日本内科学会誌104巻4号 p824-860（ガイドライン委員会合同）
      - Exercise is Medicine 検討小委員会設置
  - ・倫理委員会
    - 学会誌投稿希望者の倫理審査依頼への対応。
  - ・将来構想検討委員会
    - 研究の進歩・発展を促進する方策として、本学会の海外交流を支援。
    - また、学会における会員管理を盤石なものにするための会員管理システムの導入を検討。
  - ・広報委員会
    - 学会ホームページの英文バージョンを作成。理事長からの挨拶文、利益相反（COI）に関する運用指針、「JPFSM」誌への投稿規定等を掲載。
  - ・男女共同参画推進委員会
    - ◎委員会を1回開催（2014.9.19）。
    - ◎第69回日本体力医学会大会（長崎）において、男女共同参画を推進する目的のシンポジウム「日本体力医学会新評議員の研究・キャリア」を実施（9月20日（土））。
    - ・ガイドライン検討委員会
      - ◎渉外委員会とともに、脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2015作成に内科学会関連団体として参加、協力。
      - 脳心血管予防に関する包括的リスク管理合同会議：脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて。日本内科学会雑誌2015；104(4)：824-860
      - ◎日本体力医学会禁煙宣言の作成に着手、中断中。
    - ・利益相反委員会
      - 「日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指標」
      - 日本体力医学会学術集會発表時におけるCOI呈示の徹底の指示。
  - 3) 第69回日本体力医学会大会の実施
    - 大会長：菅原正志（西九州大学教授、長崎大学名誉教授）
    - 会期：2014年9月19日（金）～21日（日）
    - 会場：長崎大学文教キャンパス
  - 4) 平成28年度日本体力医学会健康科学アドバイザー®称号認定者
    - ・新規 4名（第25回研修会）
    - 宗 まりこ 野間 遥香 真家 克夫
    - 三浦 恭子
    - ・新規 6名（第26回研修会）
    - 植村 望 佐藤 恵子 志内 哲也
    - 成川 真隆 原 雅一 山野井好晴
    - ・継続 14名
    - 青木 昌弘 五十嵐貴仁 今永一成
    - 小貫 睦巳 表 郁夫 新矢 博美
    - 高寄 正樹 田口 太郎 田崎 博識
    - 張間 裕子 松山 茂 三輪 雅子
    - 村瀬 智彦 柳 沼章弘
    - ・終身 4名
    - 石井 緑 河田 繁治 松元 義人
    - 山口 正信
  - 5) 平成28年度日本体力医学会名誉健康科学アドバイザー称号贈呈者
    - 下村 吉治 西平 賀昭
- ### 3. 平成27年度会計（決算）に関する件
- （勝村財務委員長）
- 以下のとおり平成27年度決算についての報告がなされた。
- まず、今期決算より大会決算及び地方会決算が合算したと説明がなされた。
- 収入の部 予算に比べて会費収入と論文掲載料等収入が約25万円ずつ増収、雑収入が約40万円増収（計上済みの仮受金の処理）した結果、年度内収入は93,436,094円であった。
- 支出の部 予算に比べて事業費は約315万円削減し、管理費は予算より約90万円削減し、地方



会基金を約450万円計上した結果、全体の支出はほぼ予算額通りで、年度内支出としては90,683,756円であった。

以上により当年度収支としては約275万円の黒字となり、次年度繰越金は50,717,028円になったとの報告があった。本決算については公認会計士によるチェックが行われている事が併せて報告があり、引き続き小林監事より監査報告が行われ、審議の結果、承認された。

#### 4. 平成28年度事業計画に関する件 (小野寺総務委員長)

以下のとおり平成28年度事業計画についての報告がなされた。

##### 1) 事業期間

2015年8月1日～2016年7月31日

##### 2) 委員会活動

- ・総務委員会  
第73回福井大会の大会長の推薦。
- ・編集委員会  
体力科学Vol.64-4～65-3及びJPFISM Vol.4-3～5-2の発行、公開。  
学会大会終了後の抄録を英文とし、JPFISMに掲載運用試行。
- ・学術委員会
  - ◎スポーツ医学研修会実行委員会  
第27回スポーツ医学研修会の実施（学会HP・体力科学に案内を掲載）。
  - ◎プロジェクト研究委員会  
プロジェクト研究の課題
    - 1) 健全な発育・発達に資する研究
    - 2) 中高齢者の健康長寿に資する研究
    - 3) アスリートの障害予防または競技力向上に資する研究
    - 4) そのほか（特別な学術的貢献が期待できる課題）
 採択件数 原則として1件以内  
助成額 年間100万円以内  
助成期間 2～3年
  - ◎称号委員会  
日本体力医学会健康科学アドバイザー®の審査をスポーツ医学研修会後の申請により実施。

- ・財務委員会  
平成29年度予算案の作成。
- ・プログラム委員会  
学会大会における理事会・大会実行委員会共催のシンポジウムを開催。  
日本体育連合学術会議におけるシンポジウムの開催。
- ・評議員選考委員会  
大会前の機関紙にこれまで通りに評議員推薦のためのレジメを入れ、会員に評議員の資格を徹底させ、評議員推薦を促す。
- ・渉外委員会  
関連国際学会及び国内学会との交流事業。
- ・倫理委員会  
学会発表、論文発表における倫理規定遵守の推進と監視。

- ・将来構想検討委員会  
平成27年度事業計画である「(1) 研究の進歩、発展を促進する活動」および、「(2) 学会の基盤を固めて安定した学会の運営を可能にすること」をさらに推進。  
学会の基盤安定化のための方策として、会員へのメールニュースを定期的に発信、学会の状況および活動の周知、学会ホームページの掲載事項の連絡、会費納入の要請等を行う。
  - ・広報委員会  
ホームページの充実、その他本学会に関わる事項の広報活動。
  - ・男女共同参画推進委員会  
日本体力医学会の意思決定における男女共同参画の推進を可能とする方策について論議。
  - ・ガイドライン検討委員会  
禁煙宣言の作成等、ガイドライン作成の方向性を検討する。
  - ・利益相反委員会  
利益相反に関する指針の改定。
- 3) 第70回日本体力医学会大会の実施  
大会長：田島文博（和歌山県立医科大学リハビリテーション科教授）  
会期：2015年9月18日(金)～20日(日)  
会場：和歌山県民文化会館、ホテルアパローム紀の国
- 4) 第71回日本体力医学会大会の準備  
大会長：立身政信（岩手大学保健管理センター教授）  
会期：2016年9月23日(金)～25日(日)  
会場：マリオス、アイーナ

#### 5. 平成28年度会計報告（予算）に関する件 (勝村財務委員長)

平成28年度予算案が提示され、次年度予算と大きく異なる点として、下記の項目について説明が行われた。

- ・平成27年度に実施しなかった名簿作成を行うこと。
- ・別途積立金預金を取崩し赤字部分の補填を行うこと。

また、それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し、平成28年度の当期収支としては0円となる旨の報告がなされた（収入合計89,551,676円、支出合計89,551,676円の予定）。

#### 6. 名誉会員推薦に関する件（小野寺総務委員長）

名誉会員選考委員会（総務委員会兼務）にて名誉会員推薦内規に基づき以下の3名の候補者が推薦された旨の報告がなされ、審議の結果、承認された。  
小林寛道、福永哲夫、吉岡利忠（敬称略）

#### 7. 評議員推薦に関する件（小野寺総務委員長）

平成27年度評議員推薦に関しては32名の推薦があり、評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い、その結果32名全員について評議員資格を有するとの報告に基づき、評議員会にて承認された旨、報告がなされた。

## 新評議員 (32名)

安藤大輔	江川賢一	小倉裕司
尾崎隼朗	河合美菜子	川上諒子
丸藤祐子	岸本裕歩	北湯口純
熊原秀晃	栗原隆	黒坂光寿
小池晃彦	櫻井拓也	笹井浩行
芝崎学	高田真吾	西島壮
早田剛	古市泰郎	本間俊行
眞鍋康子	宮武伸行	村岡慈歩
本山貢	森田憲輝	門間陽樹
柳谷登志雄	山北満哉	山田実
山本直史	幸篤武	

## 8. 役員改選に関する件 (西平選挙管理委員長)

以下のとおり平成27年度社員総会後の役員について選挙結果の報告がなされた。

## 新理事 (24名)

碓井外幸	大野誠	小野寺昇
勝村俊仁	川原貴	栗原敏
後藤勝正	坂本静男	下光輝一
鈴木政登	須田和裕	武政徹
竹森重	田中喜代次	田畑泉

内藤久士	永富良一	成田和穂
西平賀昭	西牟田守	能勢博
浜岡隆文	宮地元彦	山内秀樹

## 新監事 (4名)

井上茂	小林康孝	定本朋子
清田寛		

また、下光理事長より、荒井(甲斐)裕子会員を理事長推薦理事とすることが報告された。審議の結果、新理事25名、新監事4名が承認された。

## 9. 第72回日本体力医学会大会(愛媛)開催について(小野寺総務委員長)

理事会から第72回(愛媛)大会長候補として三浦裕正会員(愛媛大学医学部附属病院病院長)が推薦されたことが報告され、審議の結果、承認された。

## 10. その他

- ・鈴木編集委員長より、JPFISM誌をMEDLINEに申請して棄却されたと報告がなされた。現在のインパクトファクターは「0.1」であり、申請条件の「0.6」を超えるために会員に対してJPFISM誌を引用するよう依頼がなされた。
- ・立身政信第71回大会長より挨拶があった。

## 一般社団法人日本体力医学会新理事会(2015年9月)議事録

日時: 2015年9月19日(土) 午後6時00分~6時30分

場所: 和歌山県民文化会館 6階 特別会議室B

出席者: 碓井外幸, 大野誠, 小野寺昇,  
荒井(甲斐)裕子, 勝村俊仁, 川原貴,  
栗原敏, 後藤勝正, 坂本静男, 下光輝一,  
鈴木政登, 須田和裕, 武政徹, 田中喜代次,  
田畑泉, 内藤久士, 永富良一, 成田和穂,  
西平賀昭, 西牟田守, 宮地元彦,  
山内秀樹新理事,

井上茂, 清田寛, 小林康孝新監事

欠席者: 竹森重, 能勢博, 浜岡隆文新理事,

定本朋子新監事

議事録作成者: 鈴木政登

井上監事が仮議長として開会した。

## 【議事】

## 1. 理事長・副理事長・常務理事の選任について(井上監事)

過日開催された役員選挙の結果が報告され、理事長に鈴木政登理事, 副理事長に西平賀昭理事, 永富良一理事, 常務理事に碓井外幸理事が選ばれたと報告があり、審議の結果、承認された。

なお、副理事長選挙の得票順で第1副理事長に西平賀昭理事, 第2副理事長に永富良一理事とすることが確認された。

鈴木理事が理事長に承認されたため、鈴木理事長を議長として議事を進めた。

## 2. 理事会日程について(鈴木理事長)

今後の理事会日程案が資料として提出され、以下の通り2016年9月までの理事会日程が決定した。

- ・2015年10月16日(金) ※臨時
- ・2015年11月20日(金)
- ・2016年2月19日(金)
- ・2016年5月20日(金)
- ・2016年8月26日(金)
- ・2016年9月22日(木) ※第71回岩手大会前日

## 3. 各種委員会委員長について(鈴木理事長)

以下の通り各種委員会委員長および副委員長を委嘱することが提案され、承認された。各種委員会委員については、次回理事会までに各委員長が委員選定の上、理事長に報告することとなった。

- |                   |       |      |
|-------------------|-------|------|
| ・総務委員会委員長         | 武政徹   | 理事   |
| ・編集委員会委員長         | 田中喜代次 | 理事   |
| 編集委員会副委員長         | 後藤勝正  | 理事   |
| ・学術委員会委員長         | 竹森重   | 理事   |
| 学術委員会副委員長         | 山内秀樹  | 理事   |
| スポーツ医学研修会実行委員会委員長 | 山内秀樹  | 理事   |
| 称号委員会委員長          | 碓井外幸  | 常務理事 |
| プロジェクト研究委員会委員長    | 須田和裕  | 理事   |
| ・財務委員会委員長         | 勝村俊仁  | 理事   |
| 財務委員会副委員長         | 浜岡隆文  | 理事   |
| ・プログラム委員会委員長      | 坂本静男  | 理事   |

- ・評議員選考委員会委員長 大野 誠 理事
- ・渉外委員会委員長 永富良一 副理事長
- ・倫理委員会委員長 成田和穂 理事
- ・将来構想検討委員会委員長 能勢 博 理事
- ・広報委員会委員長 荒井(甲斐)裕子 理事
- ・男女共同参画推進委員会委員長  
田畑 泉 理事
- ・ガイドライン検討委員会委員長  
西牟田 守 理事
- ・利益相反委員会委員長 宮地 元彦 理事

#### 4. 理事長・副理事長・常務理事の業務執行体制について（確井常務理事）

理事長・副理事長・常務理事の業務執行体制として、それぞれ複数の委員会をサポートする体制が以下の通り提案され、了承された。

なお、あくまで実務は各委員長が担当し、問題が起きた際に相談に乗るような体制を整えたことが説明された。

- ・鈴木理事長：総務，編集，財務，倫理

- ・西平副理事長：プログラム，評議員選考，広報，選挙管理
- ・永富副理事長：渉外，将来構想検討，男女共同参画推進，ガイドライン検討
- ・確井常務理事：学術，利益相反

#### 5. 事業計画について（鈴木理事長）

新理事長として考えている以下4点の事業計画について説明があった。

- ・JPFISMのインパクトファクター1以上を目指す
- ・日本体力医学会独自の学術書の刊行
- ・臨床学会との連携強化
- ・倫理の問題

#### 6. その他

- ・新役員の自己紹介が行われた。
- ・評議員会・社員総会の在り方について検討していくこととなった。
- ・次回理事会は10月16日(金) 17:30～東京駅付近で開催予定とアナウンスされた。

## 一般社団法人日本体力医学会臨時理事会（2015年10月）議事録

日時：2015年10月16日(金) 午後5時30分～7時00分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長，

西平賀昭，永富良一両副理事長，

確井外幸常務理事，

大野 誠，甲斐裕子，勝村俊仁，栗原 敏，

後藤勝正，下光輝一，須田和裕，武政 徹，

竹森 重，田中喜代次，田畑 泉，成田和穂，

西牟田守，宮地元彦，山内秀樹各理事，

井上 茂，清田 寛，小林康孝各監事

欠席者：小野寺昇，川原 貴，坂本静男，内藤久士，

能勢 博，浜岡隆文各理事，定本朋子監事

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

#### 2. 各種委員会委員について（各種委員長）

各委員長から理事長に委員の推薦があり、執行部で確認済みの委員会委員一覧が提出され、一部辞退者の記載は除くことと、当日委員に推薦されたものを含めて、審議の結果、承認された。併せて、今期の委員会活動の方針が報告された。

また、学会賞選考委員会の委員は非公開となっているが、業務執行体制として、鈴木理事長が執行役に着任する事が承認された。さらに、選挙管理委員会の執行役として西平賀昭副理事長が当たることになった。

#### 3. 今期の活動方針について（鈴木理事長）

新理事長として考えている以下4点について詳細な説明があり、承認された。

##### 1) 編集事業について

PubMed掲載に向けて、JPFISMのインパクトファクター1以上を目指す。

##### 2) 学術刊行物の刊行

本学会独自の学術刊行物をこの2年の間で刊行する予定。

まずは学術刊行物小委員会を立ち上げ、委員長は永富良一副理事長、委員には編集・学術・渉外委員会、その他関連する領域の先生方にご協力を頂くが、監修者として鈴木理事長が学術刊行物出版の責任を負うことで承認が得られた。出版までのスケジュールは、次回11月の理事会で、学術刊行物小委員会の立ち上げ（委員の承認）、出版社の決定、2016年9月頃から原稿を集め、2017年愛媛大会の時に刊行予定。

##### 3) 倫理の問題

論文投稿の際、各施設の倫理委員会での倫理審査を受けていない論文は受け付けていなかったため、スポーツクラブなどの倫理委員会がない職場に属している会員の場合は、大会では発表が出来ても論文投稿が出来ない現状があり、倫理委員会を中心にこの制度の見直しを検討してもらう。

##### 4) 会員・会費確保

各種委員会委員長から推薦された委員の中に会費を5年間納めておらず、自然退会となっている会員が含まれていた。会費未納による退会者を大会事務局で見逃していたケースがあり、会費未払いによる自然退会者を防ぐために、総務委員会で検討を行い、銀行振込み以外の会費納入方法を検討してもらう。



#### 4. 名簿作成スケジュールについて（鈴木理事長）

役員交代の時に作成していた名簿作成のスケジュールが提示され、承認された。冊子形式ではなくオンライン上で閲覧できる名簿を作成することが承認されており、実現方法については次回理事会以降に再度検討することとなった。

#### 5. プロジェクト研究について（須田委員長）

前委員会で議論されていたプロジェクト研究のスケジュールについて、現状のスケジュール（4月末応募締切）だと、承認されてから実際に研究活動を開始できるのが10月以降になり、4月頃から研究活動を開始できるように応募締め切りを設定するのが望ましいとの報告があった。前委員会の議論を尊重し、応募締切を前倒ししたいと提案があり、審議の結果、承認された。

#### 6. その他

##### 1) 国際会議における日本学術会議との共同主催について（田畑理事）

平成30（2018）年度開催国際会議における共同主催の募集についての資料が提出された。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本学会でプレコンgressを実施する場合、会議が行われる3年前に学術会議の募集があるため、今から検討を始め、来年のこの時期には内容が固まっていれば申請して共催が可能になると説明がなされた。栗原理事より、自身が所属する日本生理学会では学術会議にプレコンgressを申請する事が決まっているため（2019年3月開催予定）、日本生理学会と共同で開催する事も視野に入れてほしいこと、田畑理事は日本体育学会所属でもあるため、永富渉外委員長を中心に各関係学会と連携を取り合い、まずはどのような方向で本学会として進めていくかを今後検討することとなった。

##### 2) 日本学術会議の生活習慣病分科会と健康スポーツ分科会の共催シンポジウムについて（宮地理事）

日本学術会議の生活習慣病分科会と健康スポーツ分科会の共催シンポジウムを、来年の岩手大会で開催させていただけないかと先方より打診があったことが報告された。次回理事会にて、プログラム委員会や岩手大会長を含め、審議を行うこととなった。

#### 【報告事項】

##### 1. 各種委員会報告（委員会活動方針の内容も含む）

###### 1) 総務委員会（武政委員長）

- ・評議員会、社員総会の在り方を検討。
- ・福井大会長の推薦については、現在コンタクトを取っている最中。
- ・会費納入方法の検討（自動引き落とし等）。
- ・選挙管理規程の改定や、投票方法の検討（Web投票等）。
- ・NHKからのアンケート依頼「ためしてガッテン」のアンケートを10月15日に会員宛にメール配信を行ったと報告があり、今後このようなアンケート依頼が来た際の業務フローを検討。また、放映前

には総務委員会と広報委員会で内容の確認を行う。

###### 2) 編集委員会（後藤副委員長）

- ・PubMed掲載に向けて、JPFISMのインパクトファクター1以上を目指す。
- ・2016年までのJPFISM掲載のReview Article等の執筆者、論文題目等については前編集委員会で掲載予定が決定されているので、それ以降については新委員会として戦略的に進めていく。
- ・本理事会前に開催された編集委員会で、学会誌がJ-STAGEに掲載される度に学会員に知っていただきたいとの意見があり、費用は掛かるがメール配信等を用いてお知らせする事を今後検討。
- ・9月のJPFISMの投稿状況は9件。
- ・英語を母国語としない論文の投稿者に対して、投稿がしやすいような仕組み（規程の改定等）作りを検討。
- ・2016年岩手大会の抄録はJPFISM6号に掲載することが決まっており、構造化抄録を掲載、本体の雑誌については構造化されていないため、本体の方も構造化するかを検討。

###### 3) 学術委員会（竹森委員長）

学術委員会の下部組織に3つの委員会があるが、活動を尊重して進めていく。

###### ①スポーツ医学研修会実行委員会（山内委員長）

- ・前委員会から委員を刷新した。
- ・研修会の収支の問題があるが、応用コースに30名以上参加されたとしても、設備の問題もあり、運営も難しくなる現状がある。
- ・参加者を増やすためにメール配信には一定の効果があつたため、来年も実施予定。
- ・研修会の内容自体は大きな変更はなく準備を進める。

###### ②称号委員会（碓井委員長）

- ・称号そのものの在り方を検討。

###### ③プロジェクト研究委員会（須田委員長）

- ・スケジュールの前倒しが承認されたため、改定されたスケジュールに沿って進めていく。

###### 4) 評議員選考委員会（大野委員長）

- ・現在の評議員選考内規では7年の会員歴が定められているが、他学会で活躍されている方が本学会に入会した際は、会員歴が3年～5年でも申請が出来るようにするか等、内規の改定を検討。

###### 5) 渉外委員会（永富委員長）

- ・大きな活動は、国内外の関連学術団体との交流。
- ・脳心血管病協議会との連携。
- ・若手会員の派遣助成事業の制度の見直しに係るアンケートの実施。
- ・ECSS交流シンポジウムの2年後の公募シンポジウムを募集中（現在応募なし）。
- ・国内外の連携を広報委員会と連携してHP等を活用。

###### 6) 倫理委員会（成田委員長）

- ・理事長が掲げる今期の活動方針の実施。
- ・今後の委員会方針について検討。

###### 7) 広報委員会（甲斐委員長）

- ・情報を滞りなく学会員に伝えるHP更新。
- ・まずは新役員・委員の情報を更新。

- 8) 男女共同参画推進委員会 (田畑委員長)  
 ・理事選挙では女性理事が選ばれなかったため、評議員申請の際など、ポジティブアクションを行う。
- 9) ガイドライン検討委員会 (西牟田委員長)  
 ・継続中の案件があり、作成に取り組んでいく。  
 ・介護予防のガイドラインを検討。
- 10) 利益相反委員会 (宮地委員長)
- ・投稿規定でCOIの例文が記載されているが、利益相反がある方も投稿するので、その例文を掲載できるよう編集委員会と連絡を取り合い、改定を行う。
- 11) 財務委員会 (勝村委員長)  
 ・前委員会同様、引き続き無駄な出費が無いか確認を行う。  
 ・収入増を目指すべき、理事の先生方の協力を得たい。

## 2015年度第2回日本体力医学会編集委員会議事録

日 時：2015年9月17日(木) 16:00~17:00

場 所：和歌山県民文化会館(6階 特別会議室B)

出席者：鈴木政登(委員長・和文誌「体力科学」編集委員長)、  
 今泉和彦(副委員長・英文誌「JPFISM」編集委員長)、  
 井上 茂、勝川史憲、後藤勝正、坂本静男、  
 竹森 重、鳥居 俊、内藤久士、西牟田守、  
 藤井宣晴、水野眞佐夫、宮地元彦、山内秀樹、  
 和気秀文(各委員)

(編集事務局：佐藤信之、本間佳子、田中加奈子)

欠席者：井澤鉄也、石井直方、石原昭彦、内田 直、  
 川上泰雄、木崎節子、小宮山伴与志、下村吉治、  
 新開省二、中澤公孝、成田和穂、西保 岳、  
 能勢 博、八田秀雄、藤本繁夫、  
 宇高 潤(各委員)(委任状16通)

### 【審議事項および報告事項】

#### 1. 2015年度第1回編集委員会の議事録

上記の件につき確認された。

#### 2. 「JPFISM」誌, Vol.5, No.6に掲載予定(岩手大会)の英文抄録の掲載要項について

上記の件について、英文抄録には小見出しを入れ構造化とする、との意見が出された。

また、上記の件における「体力科学」「JPFISM」の投稿規定改訂について(体力科学64巻6号発行後)編集事務局より説明された。

本件については次期編集委員会への引き継ぎ事項とすることで了承された。

#### 3. 体力科学・JPFISM誌の投稿状況と現状報告

(2014年9月1日~2015年9月8日)

編集事務局より、体力科学誌・JPFISM誌の投稿・掲載状況、審査期間、J-STAGEのアクセス統計について報告された。新規投稿についてはJPFISM誌：25編、体力科学誌：55編であることが報告された。

JPFISM誌では申請要件の不備のあった論文が7編あり、その内訳は国内2編、海外7編で返却後、再度の投稿はないことが報告された。アクセス統計に関しては前年に比べアクセス数が増えており、特にJPFISM誌は、前年比3.5倍となり、中国からのアクセスが増えている、ことが報告された。

体力科学への投稿が英文誌へのシフト等により減少傾向にあり、体力科学64巻5号は原著1編の掲載となった。審査中の論文は複数あるが、今後、「企画文・情報誌・カテゴリーを増やすなど」体力科学誌から発信してはとの意見があった。

これについて、編集委員長より、次期編集委員会に於いて、両誌の棲み分けを議論して頂きたいとの要望があった。

この要望については次期編集委員会への引き継ぎ事項とすることで了承された。

#### 4. J-STAGE掲載「対象コンテンツの拡大」について

上記の件について、編集事務局より報告があった。今年5月11日開催された「J-STAGEサービス方針説明会」において公開基準が緩和され、「対象コンテンツの拡大」として「大会予稿集」も公開できるようになった。公開においては、「体力科学」の増刊号の位置づけで「ISSN」を表示することで公開可能となる。この件につき種々意見交換した後、編集委員会として予稿集は公開しないこととした。その理由は、年次学会大会予稿集は学会大会事務局の管轄で運営され、発行人は大会会長であり、日本体力医学会編集委員会とは独立しておりISSNも別となる、からである。

#### 5. Journalの担当について

現編集委員会は「体力科学」Vol.64-6、「JPFISM」Vol.4-5まで、投稿論文については9月19日より新編集委員会によって担当することが確認された。



## 2016年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日時：2015年10月16日(金) 15:30~17:00

場所：八重洲倶楽部(東京駅八重洲地下街)

出席者：後藤勝正(副委員長), 家光素行, 木崎節子,  
木田哲夫, 小宮秀明, 小山勝弘, 小山照幸,  
武政 徹, 竹森 重, 田中英登, 寺田 新,  
中田由夫, 成田和穂, 藤井宣晴, 松尾知明,  
宮下政司, 宮地元彦, 和気秀文,  
渡辺 賢(各委員)  
(オブザーバー: 鈴木政登理事長)

(編集事務局: 佐藤信之, 本間佳子, 田中加奈子)

欠席者：田中喜代次(委員長), 赤間高雄, 秋本崇之,  
宇高 潤, 大藏倫博, 川中健太郎,  
小宮山伴与志, 重松良祐, 十枝内厚次,  
中澤公孝, 浜岡隆文, 藤田 聡, 麓 正樹,  
前田清司, 山内秀樹, 吉川貴仁(各委員)  
(委任状15通)

### 【審議事項および報告事項】

2015年度第2回編集委員会の議事録が確認された。

#### 1. 「JPFISM」誌, Vol.5, No.6に掲載予定(岩手大会)の英文抄録の掲載要項について

前編集委員会からの継続審議となっている, 申し送り事項の「抄録の構造化」[Aims][Methods][Results][Conclusions]の小見出しをつけることが提案され, 承認された。

(この掲載要項は, 岩手大会事務局でのUMINオンライン演題登録システムで公開される。)

※抄録の構造化の件で投稿論文の抄録については, 構造化されていない点が指摘され, Vol.5, No.6を発売後に, 再検討することとなった。

※投稿規定の倫理指針の参照が古いものになっていることの指摘があり, 確認後に訂正することとなった。

#### 2. 1. における「体力科学」「JPFISM」の投稿規定改訂について(体力科学64巻6号発行後)

「体力科学」については, 「D. 体力科学6号(大会号)の抄録」を削除し, 「JPFISM」については, 下記を追加することが提案され, 承認された。

##### 1. TYPES OF MANUSCRIPT (S)

6) **Proceedings**: Proceedings provide short summaries of in-progress or completed primary studies that have been presented at the General Sessions of the Annual Meeting of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, but have not yet been fully peer-reviewed for publication as complete articles. Proceedings (up to 1,800 characters) will be published in Volume 6 of the journal.

##### 2. REVIEWS

4) Proceedings have not yet been fully peer-reviewed for publication as other articles.

##### 3. SUBMISSION GUIDELINES

2) Proceedings must be submitted through the An-

nual Meeting website by the submission deadline. Proceedings submission guidelines will be available on the website.

#### 3. 「JPFISM」投稿の際の添付証明書について

「倫理審査承認証明書」については, 証明書のスキャンの添付を廃止し, 論文内に当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し「承認番号」を記載することが提案され, 承認された。

英文校閲証明書については, 証明書のスキャンの添付を廃止するが, これまで通り英文校閲後の投稿を推奨する。編集委員あるいは査読者より, 提出された論文の英語文法やスペル等がJPFISMに掲載する論文として不適当という意見が出された場合は, 著者へ差し戻すか, あるいは不採択とすることもあり得るとすることが提案され, 承認された。

#### 4. 「Invited Review articles and Short Review articles (2017)」について

引用が期待できるReviewやプロトコルやテクニカルノートなどの掲載を目指すこととし, 編集委員より推薦を募ることとした。

#### 5. Article Typeについて

「プロトコル」と「テクニカルノート」を「体力科学」「JPFISM」両誌に追加することが提案され, 検討することとなった。

#### 6. 引用文献へのDOI (Digital Object Identifier) の記載について

J-STAGEより新機能リリース情報があり, 引用文献へのDOI(電子データ識別子)の記載によるリンク付与率向上に向けて, 引用文献へのDOIの記載を投稿規定に追加することが提案され, 承認された。

#### 7. 「Invited Review articles and Short Review articles (2016)」について

前編集委員会で決定した44編について, ホームページで公開中であることが報告された。

#### 8. 体力科学・JPFISM誌の投稿状況と現状報告

編集事務局より, 新編集委員会になって1ヶ月が経過した中で「JPFISM」誌に9件の投稿があり7件受付査読中, 「体力科学」誌に5件の投稿があり5件受付査読中であることが報告された。また掲載数について, 10月1日付で発行された「体力科学第64巻5号」については, 原著論文が1編のみでこれまでで最低の掲載数となったが, 次号掲載分「体力科学第65巻1号」については, 現在までに6編受理されており掲載数が増えることが報告された。

#### 9. 確認事項について

「J-STAGEオンライン投稿審査システムフロー図」

「投稿論文における分野担当について」「Journalの担当について」は、それぞれ説明がなされ確認された。

## 10. その他

Impact Factorを上げる1つの方策として、ジャーナルの発刊情報を学会員へe-mailなどで周知することの提案があり、理事会に働きかけていくこととなった。

また、これまでの傾向として、JPFISMへの投稿数が増えた分体力科学への投稿数が減少しているが、例え

ば体力科学とJPFISMの雑誌の関係性がJPFISMの方により学術性を置くということが明確となるならば、JPFISMで却下された論文で体力科学に推薦できるという制度も可能では（その逆も可）との意見が出された。この件については、JPFISMと体力科学の関係性について学会としての方向性が決まっていなかったので、現時点では編集委員会として検討できないということとなった。

## 平成28年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りました。平成28年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

### プロジェクト研究の全体像

- プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力および身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に向けて勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
- 平成28年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
  - 健全な発育・発達に資する研究
  - 中高齢者の健康長寿に資する研究
  - アスリートの障害予防または競技力向上に資する研究
  - そのほか（特別な学術的貢献が期待できる課題）
- 多施設が共同研究を行うことにより、より優れた成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすること。
- プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
- プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を共同で作成し、プロジェクト研究委員会に提出する。
- プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査し、採択候補研究を選定する。なお、新規採用可能件数は原則1件である。
- プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度

を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1) プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得ることとし、(2) 「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成28年1月31日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出が望ましい）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

### 研究計画書

- 研究代表者名（署名捺印してください）、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴（卒業大学または修了大学院）と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
- 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴（卒業大学または修了大学院）と年月日
- 研究課題
- 研究目的（200字以内）
- 研究期間（3年以内）
- 研究計画（200字以内）
- 研究方法（400字以内）
- 期待される研究成果（200字以内）
- 研究費の使途（会合費、通信費、印刷代などの費目）に分けて概算を記載してください
- この研究に関するこれまでの成果（原著、著書などの研究業績）を番号をふって書いてください

### 提出先 須田和裕

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長  
〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1-W9-3  
東京工業大学  
電話：03-5734-2290  
E-mail：suda@hum.titech.ac.jp

## 第27回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。今回から基礎コースのプログラムに「運動による認知症の予防・改善」を加えました。実習は救急救命法、健康者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、障害予防・機能回復の筋力トレーニングおよびテーピングなどです。アスリートを対象とした研修内容ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会非会員の方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

尚、実習を行う関係上、各年度の参加人数に制限がありますことをご了解ください。多数の方のご参加をお待ちしております。

平成27年11月21日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

山内 秀樹 太田 真 木村 真規 進藤 大典 成田 和穂 湊 久美子 山口 眞紀

### 1. 会 場

東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室など

### 2. 日時および研修内容

#### (I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。

平成28年7月1日(金)

9:00~10:30	運動と神経・筋
10:40~12:10	運動と呼吸
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	運動と代謝
14:50~16:20	運動と栄養
16:30~18:00	運動と循環

平成28年7月2日(土)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:40~12:10	生活習慣病の運動処方
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	高血圧および心血管疾患の運動
14:50~16:20	運動器疾患の運動処方
16:30~18:00	運動による認知症の予防・改善
18:15~	懇親会（会費3000円、参加自由）

#### (II) 応用コース

基本的な運動指導の実際について学びます。実習では自転車エルゴメータによる運動負荷試験をもとに運動処方を作成します。また、呼吸機能検査、体組成測定法、テーピングや筋力トレーニング実習も行います。

平成28年8月5日(金)

- 9:00～12:10 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験，心電図記録，呼吸機能検査，  
体組成測定実習）
- 12:10～13:10 昼休み
- 13:10～17:00 救急救命実習（人体模型を用いた実習）

平成28年8月6日(土)

- 9:00～12:10 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し，  
実施させる）
- 12:10～13:10 昼休み
- 13:10～17:00 スポーツ障害に対するテーピングおよび筋力トレーニング実習

平成28年8月7日(日)

- 10:00～12:00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので，ご了承下さい。

### 3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は，所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また，修了試験合格後，所定の手続きを経て，日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

修了試験は平成28年8月7日(日) 10:00～12:00に東京慈恵会医科大学で行います。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集（最近8カ年400題）正解/解説付」（税込：2,000円）がありますので，ご利用下さい。

下記の“9. 申込書送付先および問い合わせ先”へお申込み下さい。

### 4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し，それに準じて講義が行われます。また，プレゼンテーション資料も当日配布致します。

### 5. 受講料

受講料は（Ⅰ）基礎コース，（Ⅱ）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円，単科コース（基礎コース，応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが，定員に余裕があれば，単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば，全コース受講後修了試験を受験することができます。尚，学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし，学生証の呈示が必要です。

### 6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが，2コース受講後に行われる修了試験に合格し，「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し，自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

### 7. その他

健康運動指導士，同実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位，応用コース5単位が認定されます。

## 8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

## 9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル4F

一般社団法人 学会支援機構内

日本体力医学会スポーツ医学研修会 係

電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012

E-mail：jspfsm@asas.or.jp

---

## 第27回日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申します。（該当する□にレ印をつけてください。）

第27回 基礎コース

第27回 応用コース

試 験

氏 名 \_\_\_\_\_

連絡先 〒 \_\_\_\_\_

TEL： \_\_\_\_\_ E-Mail： \_\_\_\_\_



## 平成28年日本体力医学会関東地方会の開催予定

平成28年の関東地方会は下記の通り予定されています。地方会のご案内、演題募集、プログラム等は、逐一「体力科学」および「日本体力医学会ホームページ」にてご連絡申し上げます。皆様の演題応募ならびに積極的なご参加をお待ち申し上げます。

### 第166回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成28年3月27日(日) 13:00～開催予定

会場：お茶の水女子大学 共通講義棟二号館201室  
(東京都文京区大塚2-1-1)

地下鉄丸の内線茗荷谷駅より徒歩10分

地下鉄有楽町線護国寺駅より徒歩15分

JR山手線大塚駅からバス約10分(大塚2丁目駅下車徒歩2分)

なお当日は休日のため、南門が閉門されています。正門からしか学内に入ることができませんので、ご了承下さい。

(<http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>)

[一般演題の締め切り予定：平成28年2月27日]

大会長：水村真由美(お茶の水女子大学基幹研究院)

Tel: 03-5978-5272

Fax: 03-5978-5264

E-mail: mizumura.mayumi@ocha.ac.jp

### 第167回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成28年7月9日(土) 13:00～開催予定

会場：国際武道大学9号館(予定)

JR外房線勝浦駅からタクシー約5分、徒歩約15分

([http://www.budo-u.ac.jp/outline/pl14\\_campus\\_map/index.html](http://www.budo-u.ac.jp/outline/pl14_campus_map/index.html))

[一般演題の締め切り予定：平成28年6月5日]

大会長：刈谷文彦(国際武道大学体育学部)

Tel: 0470-73-4111

Fax: 0470-73-4148

E-mail: f-kariya@budo-u.ac.jp

### 第168回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成28年11月26日(土) 13:00～開催予定

会場：首都大学東京・荒川キャンパス

(東京都荒川区東尾久7-2-10)

東京駅・新宿駅から所要約30分(JR田端駅経由・バスの待ち時間除く)

日暮里駅・西日暮里駅から 舎人ライナー「熊野前」駅下車、徒歩3分

王子駅・町屋駅から 都電荒川線「熊野前」駅下車、徒歩3分

田端駅から 都営バス(端44系統)「北千住駅行」に乗車、「首都大荒川キャンパス前」下車、徒歩0分

北千住駅から 都営バス(端44系統)「駒込病院行」に乗車、「首都大荒川キャンパス前」下車、徒歩0分

(<http://www.hs.tmu.ac.jp/access.html/>)

[一般演題の締め切り予定：平成28年10月31日]

大会長：渡辺 賢(首都大学東京人間健康科学研究科)

Tel: 03-3819-1211

E-mail: masaru@tmu.ac.jp

日本体力医学会関東地方会事務局

東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室

竹森 重, 山内秀樹(事務局担当 田口美香)

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号

電話 03-5400-1200(内線2216)

FAX 03-3431-3827

E-mail mol-phys@jikei.ac.jp

## 2016-2017年度編集委員会メンバー

委員長	田中喜代次 (筑波大学体育系)		
副委員長	後藤勝正 (豊橋創造大学大学院健康科学研究科)		
委員	赤間高雄 (早稲田大学スポーツ科学学術院)	秋本崇之 (東京大学医学系研究科)	
	家光素行 (立命館大学スポーツ健康科学部)	宇高潤 (東京慈恵会医科大学医学部)	
	大藏倫博 (筑波大学体育系)	川中健太郎 (福岡大学スポーツ科学部)	
	木崎節子 (杏林大学医学部)	木田哲夫 (自然科学研究機構生理学研究所)	
	小宮秀明 (宇都宮大学教育学部)	小宮山伴与志 (千葉大学教育学部・東京学芸大学大学院)	
	小山勝弘 (山梨大学大学院総合研究部)	小山照幸 (東京都健康長寿医療センター)	
	重松良祐 (三重大学教育学部)	武政徹 (筑波大学体育系)	
	竹森重 (東京慈恵会医科大学医学部)	田中英登 (横浜国立大学教育人間科学部)	
	寺田新 (東京大学大学院総合文化研究科)	十枝内厚次 (至学館大学健康科学部)	
	中澤公孝 (東京大学大学院総合文化研究科)	中田由夫 (筑波大学医学医療系)	
	成田和穂 (日本体育大学大学院体育科学研究科)	浜岡隆文 (東京医科大学)	
	藤井宣晴 (首都大学東京大学院人間健康科学研究科)	藤田聡 (立命館大学スポーツ健康科学部)	
	麓正樹 (東京国際大学人間社会学部)	前田清司 (筑波大学体育系)	
	松尾知明 (独立行政法人労働安全衛生総合研究所)	宮下政司 (東京学芸大学教育学部)	
	宮地元彦 (医薬基盤・健康・栄養研究所)	山内秀樹 (東京慈恵会医科大学医学部)	
	吉川貴仁 (大阪市立大学大学院医学研究科)	和気秀文 (順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科)	
	渡辺賢 (首都大学東京大学院人間健康科学研究科)		

## 和文誌『体力科学』編集委員会

委員長	田中喜代次
委員	後藤勝正, 赤間高雄, 秋本崇之, 家光素行, 宇高潤, 大藏倫博, 川中健太郎, 木崎節子, 木田哲夫, 小宮秀明, 小宮山伴与志, 小山勝弘, 小山照幸, 重松良祐, 武政徹, 竹森重, 田中英登, 寺田新, 十枝内厚次, 中澤公孝, 中田由夫, 成田和穂, 浜岡隆文, 藤井宣晴, 藤田聡, 麓正樹, 前田清司, 松尾知明, 宮下政司, 宮地元彦, 山内秀樹, 吉川貴仁, 和気秀文, 渡辺賢

## 英文誌『JPFMS』編集委員会

委員長	後藤勝正
委員	田中喜代次, 赤間高雄, 秋本崇之, 家光素行, 宇高潤, 大藏倫博, 川中健太郎, 木崎節子, 木田哲夫, 小宮秀明, 小宮山伴与志, 小山勝弘, 小山照幸, 重松良祐, 武政徹, 竹森重, 田中英登, 寺田新, 十枝内厚次, 中澤公孝, 中田由夫, 成田和穂, 浜岡隆文, 藤井宣晴, 藤田聡, 麓正樹, 前田清司, 松尾知明, 宮下政司, 宮地元彦, 山内秀樹, 吉川貴仁, 和気秀文, 渡辺賢

## EDITORIAL BOARD (The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine : JPFMS)

<b>Editor-in-Chief</b>	Katsumasa GOTO ( <i>Toyohashi SOZO University</i> )
<b>Editors</b>	Kiyoji TANAKA ( <i>University of Tsukuba</i> )
	Takayuki AKIMOTO ( <i>The University of Tokyo</i> )
	Satoshi FUJITA ( <i>Ritsumeikan University</i> )
	Takafumi HAMAOKA ( <i>Tokyo Medical University</i> )
	Kentaro KAWANAKA ( <i>Fukuoka University</i> )
	Takako KIZAKI ( <i>Kyorin University</i> )
	Tomoyoshi KOMIYAMA ( <i>Chiba University and Tokyo Gakugei University</i> )
	Teruyuki KOYAMA ( <i>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital</i> )
	Tomoaki MATSUO ( <i>National Institute of Occupational Safety and Health</i> )
	Masashi MIYASHITA ( <i>Tokyo Gakugei University</i> )
	Kimitaka NAKAZAWA ( <i>The University of Tokyo</i> )
	Tomohiro OKURA ( <i>University of Tsukuba</i> )
	Tohru TAKEMASA ( <i>University of Tsukuba</i> )
	Hideto TANAKA ( <i>Yokohama National University</i> )
	Koji TOSHINAI ( <i>Shigakkan University</i> )
	Hidefumi WAKI ( <i>Juntendo University</i> )
	Hideki YAMAUCHI ( <i>The Jikei University School of Medicine</i> )
	Takao AKAMA ( <i>Waseda University</i> )
	Nobuharu L. FUJII ( <i>Tokyo Metropolitan University</i> )
	Masaki FUMOTO ( <i>Tokyo International University</i> )
	Motoyuki IEMITSU ( <i>Ritsumeikan University</i> )
	Tetsuo KIDA ( <i>National Institute for Physiological Sciences</i> )
	Hideaki KOMIYA ( <i>Utsunomiya University</i> )
	Katsuhiro KOYAMA ( <i>University of Yamanashi</i> )
	Seiji MAEDA ( <i>University of Tsukuba</i> )
	Motohiko MIYACHI ( <i>National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition</i> )
	Yoshio NAKATA ( <i>University of Tsukuba</i> )
	Kazuo NARITA ( <i>Nippon Sport Science University</i> )
	Ryosuke SHIGEMATSU ( <i>Mie University</i> )
	Shigeru TAKEMORI ( <i>The Jikei University School of Medicine</i> )
	Shin TERADA ( <i>The University of Tokyo</i> )
	Jun UDAKA ( <i>The Jikei University School of Medicine</i> )
	Masaru WATANABE ( <i>Tokyo Metropolitan University</i> )
	Takahiro YOSHIKAWA ( <i>Osaka City University</i> )

# 日本医学会だより

JAMS News

2015年10月 No.54  
日本医学会

## ◆臨時評議員会

平成27年6月24日(水)に日本医師会館小講堂にて臨時評議員会が開催された。主な議題は「日本医学会役員選任等の件」で、先に開催された日本医学会連合の定時総会で選任された新役員を日本医学会の役員とすること、また、副会長は従来、基礎、社会、臨床に各1名ずつであったが、近年、臨床部会の数が増加し、今後も継続して増加が予想されるため、臨床部会の副会長を、臨床内科系、臨床外科系の2つに分け、4名の副会長とすることが承認された。

## ◆日本医学会公開フォーラム

第19回日本医学会公開フォーラムは「胃がん—ここまで進んだ診断と治療—」をテーマに、12月26日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員長は、今野弘之(浜松医科大学副学長・病院長)。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

## ◆日本医学会シンポジウム

第148回シンポジウムは「新しいがん免疫療法」をテーマに、12月24日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、間野博行、岩井佳子、上田龍三の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会HPをご参照いただきたい。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月2日(水)に開催し、平成27年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞21、奨励賞28を審査した。

選考の結果、11月1日(日)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・慢性炎症・癌化に関わる新しいユビキチン修飾系の発見/岩井一宏(京大・細胞機能制御学)
- ・生活習慣病のリスク要因解明と予防対策の評価に関する公衆衛生学的研究/磯博康(阪大・公衆衛生学)
- ・高血圧の発症の分子メカニズム/藤田敏郎(東大先端科学技術研究センター)
- ・がん外科手術手技に関する臨床研究法の確立とそれを用いた胃がんリンパ節郭清の標準化/笹子三津留(兵庫医大・外科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・分子イメージングによるがんのコンパニオン診断とイメージングに基づいた光線治療法の開発/光永真人(慈恵医大・内科学)
- ・褐色・白色脂肪細胞における転写・エピゲノム制御と肥満症における意義/脇裕典(東大・脂肪細胞機能制御学)

- ・ ストーマ患者に対する新たな同種複合組織移植研究/荒木 淳 (東大・形成外科・美容外科学)
- ・ 子宮内膜由来の着床障害による不妊症の関連遺伝子の解析/黒田恵司 (順天堂大・産科婦人科学)
- ・ 医師の健康支援に関する産業保健的介入のあり方の検討/和田耕治 (国立国際医療研究センター)
- ・ 心不全特異的なBNP転写誘導メカニズムの解明による新たな経口心不全治療薬開発の試み/塚本 蔵 (阪大・医化学)
- ・ 肺癌化学療法に伴う免疫耐性機構の動的変化を克服する化学免疫療法の基盤開発とその制御/大植祥弘 (川崎医大・呼吸器内科学)
- ・ 消化器癌における常在微生物群ゲノムの解析と分子異常・免疫応答・環境因子との関連/能正勝彦 (札幌医大・消化器・免疫・リウマチ内科学)
- ・ 炎症性腸疾患における腸内細菌叢パターン解析による新たな診断分類, 治療選択手法の確立/高山哲朗 (東海大・内科学)
- ・ 臓器間神経ネットワークによる体重調節機構の解明に基づく新規肥満治療薬の開発/山田哲也 (東北大・糖尿病代謝内科学)
- ・ CTCチップを用いた循環腫瘍細胞捕捉と低侵襲的な新規腫瘍確定診断法の確立/横堀武彦/(群馬大・病態腫瘍薬理学)
- ・ 食道癌における“がん代謝”に関わる epigenomic biomarker の網羅的解析/馬場祥史 (熊本大・消化器外科学)
- ・ 聴覚機能の成立に関わるアクチン制御機構の解明/坂口博史/(京府医大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
- ・ メタボリックシンドロームにおける尿路結石促進機序の解明と分子標的治療への応用/岡田淳志 (名市大・腎・泌尿器科学)
- ・ 次世代型偏光感受型光干渉層計による術後瘢痕化評価/福田慎一 (筑波大・眼科学)

## ◆「HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」作成について

HPV ワクチン接種後に生じた様々な症状により, 適切な医療を求めている患者及びその保護者に対する支援体制充実のため, 日本医師会とともに作成したものである. 現場で対応にあたる地域の医療機関, 都道府県ごとに選定した協力医療機関の医師等を対象にしている. 平成27年8月19日(水)に日本医師会と合同記者会見を行った. 手引きは日本医学会HPからダウンロードできる.

<http://jams.med.or.jp/news/041.pdf>

また, 平成26年12月10日(水)には日本医師会と「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに合同シンポジウムを開催しており, 日本医学会HP「Online ライブラリー」から動画配信しているので併せてご参照いただきたい.  
<http://jams.med.or.jp/library/symposium.html>

## ◆研究倫理教育研修会

日本医学会連合研究倫理委員会, 日本医学雑誌編集者組織委員会, 日本医学会利益相反委員会主催の研究倫理教育研修会を, 「医学研究倫理を考える」をテーマに, 平成27年5月15日(金), 河上 裕, 北村 聖, 曾根三郎の各座長の下, 日本医師会館大講堂にて開催した.

当日は, 「医学研究と倫理」(河上 裕慶應義塾大学医学研究科委員長), 「医学研究成果公表における著者資格と研究不正およびその防止」(北村 聖東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授), 「医学系研究に係る利益相反マネジメントの考え方とその実際」(曾根三郎徳島大学名誉教授/徳島市病院事業管理者), 「『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の概要」(福井次矢聖路加国際大学理事長/聖路加国際病院院長), 「あらためて研究倫理とは何か～医の倫理との異同を考える」(樺島次郎東京財団研究員)の講演がそれぞれ行われ, 総合討論の後, 終了した. 参加は97分科会.



## 編 集 後 記

「体力科学」第64巻第6号をお届けいたします。本号は、先日和歌山で行われました第70回日本体力医学会大会での一般演題の抄録と、JPFSM, Vol. 4, No. 5の抄録を中心に構成されております。大会抄録を改めて確認させていただきますと、本学会がカバーする分野の広さに驚かざるを得ません。発表された皆様におかれましては、これらの成果を学会での発表に留め置かず、是非、「体力科学」または「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)」にご投稿していただけますようお願い申し上げます。

さて、英文誌JPFSMは2012年の創刊から、今年で4年が経過いたしました。残念ながら、現在のところインパクトファクター(IF)の獲得には至っておりませんが、投稿数も徐々に増加しており、雑誌の体力が増してきていることがわかります。また、JPFSMの閲覧数は2014年度の20224アクセスから、2015年度は70772へ増加していました。この閲覧数は、一流誌と比較すると非常に微々たるものですが、中国、米国といった諸外国での増加が著しいことは、特筆に値します。つまり、JPFSMに

掲載された論文が、支持されているかどうかは別として、日本国内にとどまらず広く世界で認知され始めた、と言えます。これらの結果は、投稿者、査読者、編集事務局の皆様方のみならず、会員の皆様の絶大なご支援・ご協力なしにはあり得ません。ここに改めて御礼申し上げますとともに、皆様のご投稿、掲載論文の引用をお願いいたします。

編集者としては、これに報いるためにも、雑誌の魅力を高める方策を、編集委員会で議論し、積極的に進めていきたいと思えます。IFの獲得やpubmedへの収載はその最たる例ですが、広く読者を集めるための雑誌の広報活動、投稿者のみならず査読者支援を含めた査読システムの強化などは、今後必要になってくるかもしれません。また、会員、読者の皆様からの意見は、今後の雑誌の発展に欠かすことができませんので、お聞かせいただけますと幸いです。

宇高 潤

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.64, No.6

#### 体 力 科 学 第 6 4 巻 第 6 号

平成 27 年 11 月 25 日 印 刷

平成 27 年 12 月 1 日 発 行

編集兼発行者  
発 行 所

鈴木 政 登  
一般社団法人日本体力医学会  
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13  
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内  
TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012  
E-mail : jspfsm@asas.or.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1  
鶴岡印刷株式会社内  
TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120  
E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1  
鶴岡印刷株式会社